

公 開
資 料 3

第 3 2 7 回 幹 事 会
公 開 審 議 事 項

令和4年6月29日

日 本 学 術 会 議

公 開 審 議 事 項

件名・議案	提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載)	説明者	根拠規定等
Ⅲ 公開審議事項					
1. 規則関係					
提案 1	第25期における意思の表出の案の提出期限等について	菱田副会長	7	第25期における意思の表出の案の提出期限等を決定する必要があるため	菱田副会長 —
2. 委員会関係					
提案 2	(機能別委員会) (1) 科学者委員会運営要綱の一部改正 (小委員会の設置 1 件) (2) 小委員会委員の決定 (新規 1 件)	(1) 科学者委員会委員長 (2) 会長	11	科学者委員会における小委員会の設置に伴い、運営要綱の一部を改正するとともに、小分科会における委員を決定する必要があるため。	望月副会長 (1) 会則第 27 条 1 項 (2) 内規第 12 条 2 項、18 条
提案 3	(分野別委員会) (1) 運営要綱の一部改正 (新規設置 1 件) (2) 小委員会委員の決定 (新規 1 件)	(1) 総合工学会委員長 (2) 第三部長	15	(1) 分野別委員会における小委員会の設置に伴い、運営要綱の一部改正する必要があるため。 (2) 分野別委員会における小委員会委員を決定する必要があるため。	第三部長 (1) 会則 27 条 1 項 (2) 内規 18 条
3. 協力学術研究団体関係					
提案 4	日本学術会議協力学術研究団体を指定すること	科学者委員会委員長	19	日本学術会議協力学術研究団体への新規申込のあった下記団体について、科学者委員会の意見に基づき、指定することとしたい。 ・リグニン学会 ※令和 4 年 6 月 29 日現在 2, 109 団体 (上記申請団体を含む)	望月副会長 会則 36 条
4. 国際関係					
提案 5	令和 4 年度代表派遣について、実施計画の追加及び派遣者を決定すること	会長	21	令和 4 年度代表派遣について、実施計画の追加及び派遣者を決定する必要があるため。	高村副会長 国際学術交流事業の実施に関する内規 19 条 2 項、22 条
提案 6	令和 5 年度共同主催国際会議の取り扱いについて	会長	23	令和 5 年度共同主催国際会議の取り扱いについて決定する必要があるため。	高村副会長 国際学術交流事業の実施に関する内規 34 条 1 項
提案 7	令和 4 年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の決定について	会長	25	令和 4 年度年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣を決定する必要があるため。 ※国際委員会 6 月 28 日承認、同フューチャー・アースの国際的展開対応分科会 6 月 24 日承認	高村副会長 国際学術交流事業の実施に関する内規 52 条

4. 学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等
【令和4年度第3四半期】

提案8	学術フォーラム 「カーボンニュートラル実現に向けた学術の挑戦：学術領域を超える課題と取組」の開催について	会長	27	主催：日本学術会議 日時：令和4年10月前半もしくは11月前半 場所：原則としてオンライン ※日本学術会議が開催主体のため、幹事会の決定が必要	—	内規別表第1
提案9	学術フォーラム 「地域の課題解決を地球環境課題への挑戦に結びつける超学際研究（仮題）」の開催について	フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会委員長	31	主催：日本学術会議 日時：令和4年10月9日（日）13:30～16:15（仮） 場所：日本学術会議講堂（オンライン併用） ※日本学術会議が開催主体のため、幹事会の決定が必要	—	内規別表第1
提案10	学術フォーラム 「安心感への多面的アプローチ」の開催について	第三部長	33	主催：日本学術会議 日時：令和4年10月29日（土）または11月5日（土）13:00～17:10 場所：オンライン ※日本学術会議が開催主体のため、幹事会の決定が必要	—	内規別表第1
提案11	学術フォーラム 「ヒトゲノム編集と着床前遺伝学的検査について考える—新しい医療技術の利用のあり方（仮題）」の開催について	第二部長	35	主催：日本学術会議 日時：令和4年11月26日（土）13:00～17:30（予定） 場所：日本学術会議講堂（オンライン併用） ※日本学術会議が開催主体のため、幹事会の決定が必要	—	内規別表第1
提案12	学術フォーラム 「地球規模のリスクに立ち向かう地域研究」の開催について	地域研究委員会委員長	37	主催：日本学術会議 日時：令和4年12月10日（土）14:00～17:00 場所：日本学術会議講堂（オンライン併用） ※日本学術会議が開催主体のため、幹事会の決定が必要	—	内規別表第1
提案13	公開シンポジウム 「日本の社会・産業をリードする化学系博士人材とは～産学で取り組む博士人材育成と、これから博士を目指す学生への期待～（仮題）」	化学委員会委員長	39	主催：日本学術会議化学委員会、化学委員会化学企画分科会 日時：令和4年11月5日（土）10:00～17:00（仮） 場所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催） ※第三部承認	—	内規別表第1
提案14	公開シンポジウム 「URSI日本生誕100周年記念シンポジウム—日本の電波科学研究の発展並びにURSI日本の歩み—」	電気電子工学委員会委員長	41	主催：日本学術会議電気電子工学委員会URSI分科会 日時：令和4年11月12日（土）10:00～19:00 場所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催） ※第三部承認	—	内規別表第1
提案15	公開シンポジウム 「物理学のアプローチが拓く世界とその展開」	物理学委員会委員長	47	主催：日本学術会議物理学委員会 日時：令和4年11月20日（日）12:30～17:45 場所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催） ※第三部承認	—	内規別表第1
提案16	公開シンポジウム 「経営学分野における若手研究者の育成のために、今、何が求められているのか？研究業績の評価と関連して」	経営学委員会委員長	51	主催：日本学術会議経営学委員会経営学分野における研究業績の評価方法を検討する分科会 日時：令和4年11月27日（日）13:30～16:30 場所：日本学術会議講堂 ※第一部承認	—	内規別表第1

5. その他のシンポジウム等						
提案17	公開シンポジウム 「地球の未来を切り拓くー育種学の役割ー（第2回「企業から見た育種学の未来」）」	農学委員会委員長	53	主催：日本学術会議農学委員会育種学分科会 日時：令和4年8月5日（金）15:00～17:00 場所：オンライン開催 ※第二部承認	—	内規別表第1
提案18	公開シンポジウム 「越境しあうインフラガバナンスー性能とサービスをつなぐー」	土木工学・建築学委員会委員長	55	主催：日本学術会議土木工学・建築学委員会インフラ高度化分科会 日時：令和4年8月10日（水）13:30～17:00 場所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催） ※第三部承認	—	内規別表第1
提案19	公開シンポジウム 『日本学術会議食料科学委員会・農学委員会合同 農芸化学分科会主催 連続公開シンポジウム 「SDGs達成に向けた農芸化学の挑戦」 第三回「微生物や微生物菌叢への革新的機能付与・機能制御の新展開」』	食料科学委員会委員長、農学委員会委員長	57	主催：日本学術会議食料科学委員会・農学委員会合同農芸化学分科会 日時：令和4年8月18日（木）13:00～16:35 場所：オンライン開催 ※第二部承認	—	内規別表第1
提案20	公開シンポジウム 「法獣医学の世界」	食料科学委員会委員長	61	主催：日本学術会議食料科学委員会獣医学分科会 日時：令和4年9月3日（土）13:30～16:05 場所：オンライン開催 ※第二部承認	—	内規別表第1
提案21	公開シンポジウム 「那須地域から考える20年後の日本社会ー共領域におけるイノベーション創出と地方創生ー」	若手アカデミー運営分科会委員長	63	主催：日本学術会議若手アカデミー及び所属分科会（イノベーションに向けた社会連携分科会、地域活性化に向けた社会連携分科会） 日時：令和4年9月5日（月）14:00～17:00 場所：那須ハイランドパークイベント館（栃木県那須郡那須町）	—	内規別表第1
提案22	公開シンポジウム 「口腔と全身のネットワークー～脈管系から生命現象を理解する～」	歯学委員会委員長	67	主催：日本学術会議歯学委員会基礎系歯学分科会、一般社団法人歯科基礎医学会 日時：令和4年9月17日（土）17:30～19:00 場所：徳島大学大塚講堂大ホール（徳島県徳島市） ※第二部承認	—	内規別表第1
提案23	日本学術会議近畿地区会議学術講演会 「総合知をはぐくむ学び」の開催について	科学者委員会委員長	69	主催：日本学術会議近畿地区会議、日本学術会議総合工学委員会、京都大学 日時：令和4年9月19日（月・祝）13:00～17:00 場所：京都大学百周年時計台記念館 百周年記念ホール（京都市左京区）、ハイブリッド開催 ※科学者委員会、第三部承認	—	内規別表第1

提案24	公開シンポジウム 「「地理総合」開始後の地理教育における課題と展望」	地域研究委員会委員長、地球惑星科学委員会委員長	71	主催：日本学術会議地域研究委員会・地球惑星科学委員会合同地理教育分科会、公益社団法人日本地理学会 日時：令和4年9月24日（土）13:00～16:45 場所：香川大学（香川県高松市）（コロナウイルス感染症の状況により、オンライン開催となる可能性あり） ※第一部、第三部承認	—	内規別表第1
提案25	公開シンポジウム 「東南アジアのアブラヤシ農園の持続的開発の問題点と課題」	農学委員会委員長、環境学委員会委員長	75	主催：日本学術会議農学委員会農業生産環境工学分科会、環境学委員会環境科学分科会 日時：令和4年9月29日（木）13:00～17:00 場所：オンライン開催 ※第二部、第三部承認	—	内規別表第1
提案26	公開シンポジウム 「現代における政治的支配と知」	政治学委員会委員長	77	主催：日本学術会議政治学委員会政治思想・政治史分科会 日時：令和4年10月1日（土）9:45～11:45 場所：龍谷大学深草キャンパス（京都市伏見区）（予定） ※第一部条件付き承認	—	内規別表第1
提案27	日本学術会議in宮城の開催について	地方学術会議委員会委員長	79	主催：日本学術会議 日時：令和4年11月5日（土）10:30～16:55 場所：東北大学片平キャンパス（仙台市青葉区）（ハイブリッド開催） ※日本学術会議が開催主体のため、幹事会の決定が必要	—	内規別表第1
提案28	公開シンポジウム 「21世紀の新しい人材育成に向け薬学教育はどこへ向かうのか？」	薬学委員会委員長	83	主催：日本学術会議薬学委員会化学・物理薬学分科会、薬学委員会薬学教育分科会、公益社団法人日本薬学会 日時：令和4年11月26日（土）13:00～17:30 場所：オンライン開催 ※第二部承認	—	内規別表第1

6. 後援

提案29	国際会議の後援をすること	会長	87	以下の国際会議について、後援の申請があり、国際委員会において審議を行ったところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。 ・第21回アジア獣医師会連合（FAVA）大会	高村副会長	国際学術交流事業の実施に関する内規39条
提案30	国内会議の後援をすること	会長	89	以下について、後援の申請があり、関係する部、委員会に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。 ①第40回日本獣医師会獣医学術学会年次大会（令和4年度） ②SAMPE Japan 先端材料技術展 2022 ③第24回日本感性工学会大会 ④第43回日本熱物性シンポジウム ⑤第63回大気環境学会年会	会長	後援名義使用承認基準3(2)ウ

7. その他

	件名	資料(頁)
参考	今後の総会及び幹事会開催予定 今後の幹事会及び総会の日程につきご確認ください。次回幹事会は、7月27日(水)13:30～開催。	91

第 25 期における意思の表出の案の提出期限等について（案）

〔 令 和 4 年 6 月 2 9 日
日本学術会議第 3 2 7 回幹事会決定〕

意思の表出の適切な発出（内容、時期など）を実現するとともに、期末における集中を回避し、査読及び審議（意思の表出の案を承認するための審議をいう。以下同じ。）に要する十分な期間を確保するため、第 25 期における意思の表出の案の提出期限等については、以下のとおりとする。

ただし、緊急又は早期の意思の表出が求められるなどの特段の事情がある場合は、この限りでない。

1. 検討課題等の提出期限

意思の表出等の作成手続について（令和 3 年 1 2 月 2 4 日日本学術会議第 3 2 0 回幹事会決定）Ⅱ 2 の規定に基づき、意思の表出の発出を希望する委員会等は、遅くとも令和 5 年 1 月 3 1 日までに、意思の表出を行おうとする検討課題等を事務局（科学的助言等対応委員会の事務を担当する者）に提出する。

2. 査読案の提出期限

部及び分野別委員会並びにそれらの下の分科会は、遅くとも令和 5 年 3 月 3 1 日までに、意思の表出の案（査読を受ける案）を事務局（査読組織の事務を担当する者）に提出する。

幹事会附置委員会、機能別委員会、課題別委員会及びそれらの下の分科会並びに若手アカデミーは、遅くとも令和 5 年 6 月 3 0 日までに、意思の表出の案（査読を受ける案）を事務局（査読組織の事務を担当する者）に提出する。

3. 審議案の提出期限

部及び分野別委員会並びにそれらの下の分科会は、遅くとも令和 5 年 4 月 3 0 日までに、意思の表出の案（査読を完了した案）を事務局（審議組織の事務を担当する者）に提出する。

幹事会附置委員会、機能別委員会、課題別委員会及びそれらの下の分科会並びに若手アカデミーは、遅くとも令和 5 年 7 月 3 1 日までに、意思の表出の案（査読を完了した案）を事務局（審議組織の事務を担当する者）に提出する。

4. 留意事項

- (1) 委員会等において計画的に審議を行うこととし、上記に定める期限までに提出がなかった場合は、今期中に意思の表出を発出できないことがあるため留意すること。
- (2) 査読組織及び審議組織においては、意思の表出の質を確保する観点から、十分な査読及び審議を実施すること。特に査読組織においては、上記審議案の提出期限のために拙速な査読とならないよう留意すること。
- (3) 議論が尽くされない場合、査読及び審議が完了しない場合、次期に意思の表出を行うことが適切であると考えられる場合などにおいては、次期に継続して審議

することとし、今期の審議経過を「記録」として取りまとめることを含めて検討すること。

- (4) 委員会等の活動として、学術フォーラム又はシンポジウムの開催、日本学術会議協力学術研究団体との対話、国際学術会議団体との連携など、意思の表出の発出以外についてもあわせて検討すること。

附 則

(施行期日)

- 1 この決定は、決定の日から施行する。

(この決定の失効)

- 2 この決定は、令和5年9月30日限り、その効力を失う。

(参考) 提出期限一覧

	部及び分野別委員会並びにそれらの下の分科会	幹事会附置委員会、機能別委員会、課題別委員会及びそれらの下の分科会並びに若手アカデミー
検討課題等の提出期限	令和5年1月31日まで	令和5年1月31日まで
査読案の提出期限	令和5年3月31日まで	令和5年6月30日まで
審議案の提出期限	令和5年4月30日まで	令和5年7月31日まで

(参考)

第24期における提言等の案の提出の最終期限について

〔令和元年6月27日〕
〔日本学術会議第279回幹事会決定〕

期末における集中を回避し、幹事会での十分な審議期間を確保するため、第24期における勧告、要望、声明、提言、報告及び回答（以下「提言等」という。）の案の提出の最終期限については、以下のとおりとする。

なお、本決定における「提言等の案」とは、査読を完了した案をいう。

1. 部及び分野別委員会並びにそれらの下の分科会（以下「部等」という。）は、遅くとも令和2年4月30日までに、提言等の案を事務局に提出する。
2. 幹事会附置委員会、機能別委員会及び課題別委員会並びにそれらの下の分科会は、遅くとも令和2年7月31日までに、提言等の案を事務局に提出する。
3. 1. 及び2. に定める期限までに提出がなかった場合は、今期中は幹事会に付議出来ないことがあるため留意すること。

附 則

（施行期日）

- 1 この決定は、決定の日から施行する。
（この決定の失効）
- 2 この決定は、令和2年9月30日限り、その効力を失う。

○科学者委員会運営要綱（平成17年10月4日日本学術会議第1回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改正後				改正前			
(略)				(略)			
(分科会)				(分科会)			
第2 委員会に、次の表のとおり分科会、小分科会及び小委員会（以下「分科会等」という。）を置く。分科会の設置期限は当該期末までとし、委員長は期首及び適時に分科会の設置について幹事会に提案する。				第2 委員会に、次の表のとおり分科会、小分科会及び小委員会（以下「分科会等」という。）を置く。分科会の設置期限は当該期末までとし、委員長は期首及び適時に分科会の設置について幹事会に提案する。			
分科会	調査審議事項	構成	備考	分科会	調査審議事項	構成	備考
男女共同参画分科会	(略)	(略)	(略)	男女共同参画分科会	(略)	(略)	(略)
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
ジェンダー研究国際連携小分科会	(略)	(略)	(略)	ジェンダー研究国際連携小分科会	(略)	(略)	(略)
ジェンダー教育推進小委員会	1. 総合的・学際的な視野からジェンダー教育の現状を分析し、社会の構造的な課題を明示する（特に、都市部と地方の格差、経済的な格差、生活文化の影響などに目配りする）。 2. ジェンダー平等を推進するための教育のあり方に関して、教育のみならず、経済、労働、政治、福祉などの各領域にかかわる政府・地方自治体の各部署に向けて提	12名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者	設置期間：令和4年6月29日～令和5年9月30日	(新規設置)	(新規設置)	(新規設置)	(新規設置)
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)

	言を発する。 <u>3. 関連諸学会はもちろん、一般市民に向けた啓発活動を企画する。</u>			(略)
(略)	(略)	(略)	(略)	
(略)				(略)

附則（令和4年6月29日日本学術会議第327回幹事会決定）
この決定は、決定の日から施行する。

科学者委員会男女共同参画分科会小委員会の設置について

分科会等名：ジェンダー教育推進小委員会

1	所属委員会名	科学者委員会男女共同参画分科会
2	委員の構成	12名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者
3	設置目的	日本は国際的に見てジェンダー不平等の著しい状況にある。教育領域に注目するならば、大学・大学院への進学者数に見られるジェンダーギャップが問題視され、特にギャップが著しいとされる理系分野やエリート校においては近年さまざまな改善策が打ち出されている。高等教育におけるそうしたジェンダーギャップ、ひいては政治・司法の領域や各領域のリーダーシップにみられるジェンダーギャップを改善するためには、乳幼児期から成人期までの人生段階を総合的に視野に入れ、それぞれの段階におけるジェンダーの課題やそれらの影響関係について、教育領域のみならず経済、労働、政治、福祉などの領域も含めて学際的に議論する必要がある。また、これだけ複雑な主題を取り扱うため、議論は一定程度長期的に継続される必要もある。これらの理由から、部を横断する小委員会を科学者委員会のもとに設置する。
4	審議事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 総合的・学際的な視野からジェンダー教育の現状を分析し、社会の構造的な課題を明示する（特に、都市部と地方の格差、経済的な格差、生活文化の影響などに目配りする）。 2. ジェンダー平等を推進するための教育のあり方に関して、教育のみならず、経済、労働、政治、福祉などの各領域にかかわる政府・地方自治体の各部署に向けて提言を発する。 3. 関連諸学会はもちろん、一般市民に向けた啓発活動を企画する。
5	設置期間	令和4年6月29日～令和5年9月30日
6	備考	※新規設置

【機能別委員会】

○委員の決定（新規1件）

（科学者委員会男女共同参画分科会ジェンダー教育推進小委員会）

氏名	所属・職名	備考
岡部 美香	大阪大学大学院人間科学研究科教授	第一部会員
杉山 久仁子	横浜国立大学教育学部教授	第二部会員
伊藤 貴之	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科／理学部情報科学科教授	連携会員
河野 銀子	山形大学学術研究院教授	連携会員
熊谷 晋一郎	東京大学先端科学技術研究センター当事者研究分野准教授	連携会員
谷口 洋幸	青山学院大学法学部教授	連携会員
本田 由紀	東京大学大学院教育学研究科教授	連携会員
横山 広美	東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構教授	連携会員

【設置予定：第327回幹事会（令和4年6月29日）、決定後の委員数：9名】

分野別委員会運営要綱（平成26年8月28日日本学術会議第199回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改 正 後					改 正 前					
別表第1					別表第1					
分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	設置期間	分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	設置期間	
総合工学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	総合工学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	
	総合工学委員会総合工学企画分科会	(略)	(略)	(略)		総合工学委員会総合工学企画分科会	(略)	(略)	(略)	(略)
	総合工学委員会総合工学企画分科会総合工学分野の教育小委員会	1. 総合工学分野の教育の目指す人材、教育対象についての考え方 2. 総合工学分野の定義や特性について 3. 総合工学分野の参照基準の検討、まとめに係る審議に関すること	15名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者	令和4年6月29日～令和5年9月30日		(新規設置)				
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	

附 則

この決定は、決定の日から施行する。

総合工学委員会総合工学企画分科会小委員会の設置について

分科会等名：総合工学分野の教育小委員会

1	所属委員会名	総合工学委員会
2	委員の構成	15名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者
3	設置目的	<p>日本学術会議は、平成20年に文部科学省から、大学教育の分野別質保証の在り方について審議する依頼を受けたことを契機として、分野別（学問分野別）の参照基準の作成を開始し、現在までに約30の分野の参照基準を作成し、公表しているが、総合工学分野は未着手である。</p> <p>一方、総合工学分野は名称が示すようにエネルギー、輸送、情報等社会基盤の構築・維持に関わる学問・技術分野であり、カーボンニュートラル、パンデミック、ダイバーシティ&インクルージョンなど現代の課題のいずれにも深く関わるため、これらを解決し、維持するためには、総合工学分野を担う将来の人材育成が重要な鍵を握っている。</p> <p>そのため、小委員会を設置して、「総合工学」に必要な教育のあるべき姿を議論し、「総合工学分野」の参照基準の原案をまとめる。</p>
4	審議事項	<p>1. 総合工学分野の教育の目指す人材、教育対象についての考え方</p> <p>2. 総合工学分野の定義や特性について</p> <p>3. 総合工学分野の参照基準の検討、まとめ</p> <p>に係る審議に関すること</p>
5	設置期間	令和4年6月29日～令和5年9月30日
6	備考	※新規設置

【小委員会】

○委員の決定（新規1件）

（総合工学委員会総合工学企画分科会総合工学分野の教育小委員会）

氏名	所属・職名	備考
小山田 耕二	京都大学学術情報メディアセンター教授	第三部会員
玉田 薫	九州大学主幹教授・副学長	第三部会員
筑本 知子	中部大学超伝導・持続可能エネルギー研究センター教授	第三部会員
伊藤 宏幸	ダイキン工業株式会社テクノロジーイノベーションセンターリサーチコーディネーター	連携会員

【設置予定：第327回幹事会（令和4年6月29日）、決定後の委員数：7名】

日本学術会議協力学術研究団体の新規指定について

	団体名	概 要
1	リグニン学会 (https://www.lignin-society.jp/)	本団体は、リグニンとその関連物質に関する研究の進歩をはかり、もって学術の発展及び技術の向上に寄与することを目的とするものである。

令和4年度代表派遣実施計画の追加及び派遣者の決定について

以下のとおり、令和4年度代表派遣実施計画の追加及び派遣者の決定を行う。

	会議名称	会 期	開催地/ 形式等	派遣候補者 (職名)	推 薦	内 容
1	世界科学フォーラム (WSF) 執行委員会	7月12日	ライデン (オランダ) / ハイブリッド形 式	高村 ゆかり 第一部会員 (東京大学未来ビジョン研究センタ ー教授)	国際委員会	・派遣者の決定 ※実施計画については第322回幹 事会(令和4年2月24日)にて承認 済み。 ※オンライン出席
2	S20 (Science 20) プレサミ ット	7月27日 ～ 7月28日	ジャカルタ (インドネシア) / ハイブリット形式	高村 ゆかり 第一部会員 (東京大学未来ビジョン研究センタ ー教授)	国際委員会	・派遣者の決定 ※実施計画については第326回幹 事会(令和4年5月25日)にて承認 済み。 ※オンライン出席
				調整中		・代表派遣計画の追加 ※派遣候補者は会議プログラムが 確定後に指名する。 ※オンライン出席
3	国際歴史学会議 (CISH/ ICHS) 第23回ポズナニ大会	8月21日 ～ 8月27日	ポズナニ (ポーランド) / ハイブリッド形 式	吉澤 誠一郎 連携会員 (東京大学大学院人文社会系研究 科教授)	史学委員会国際 歴史学会議等分 科会	・代表派遣計画の追加 ・派遣者の決定 ※現地出席予定
4	南極研究科学委員会 (SCAR) 代表者会議	9月5日 ～ 9月7日	ゴア (インド)	中村 卓司 第三部会員 (情報・システム研究機構国立極 地研究所所長)	地球惑星科学委 員会地球惑星科 学国際連携分科 会	・派遣者の決定 ※実施計画については第322回幹 事会(令和4年2月24日)にて承認 済み。 ※現地出席予定

	会議名称	会 期	開催地/ 形式等	派遣候補者 (職名)	推 薦	内 容
5	海洋研究科学委員会 (SCOR) 年次総会及び 執行理事会	10月4日 ～ 10月6日	釜山 (韓国)	原田 尚美 連携会員 (東京大学大気海洋研究所国際・ 地域連携研究センター教授)	地球惑星科学委 員会 SCOR 分科 会	<p>・派遣者の決定</p> <p>※実施計画については第 322 回幹 事会(令和4年2月 24 日)にて承認 済み。</p> <p>※現地出席予定</p>

令和 5 年度共同主催国際会議の取り扱いについて

令和 4 年 3 月 24 日第 323 回幹事会にて令和 5 年度共同主催国際会議として決定された 10 件の国際会議のうち、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて当初計画されていた令和 5 年度に開催が困難となった会議 1 件について、下記のとおり取り扱う。

- ・第 8 回国際薬学連合世界薬科学会議：令和 5 年度の開催を中止する。

[参考] 令和 5 年度共同主催国際会議の取り扱い変更について

会議名	変更点（延期等）
第 1 回国際研究皮膚科学会	（変更なし）
第 8 回国際薬学連合世界薬科学会議	令和 5 年度の開催を中止
国際がんサポーターブケア学会 2023	（変更なし）
第 22 回国際自動制御連盟世界大会	（変更なし）
第 38 回宇宙線国際会議	（変更なし）
第 26 回 IUPAC 化学熱力学国際会議	（変更なし）
国際天文学連合アジア太平洋地域の天文学に関する国際会議	（変更なし）
第 28 回 IUPAP 統計物理学国際会議	（変更なし）
第 35 回国際電波科学連合総会	（変更なし）
第 10 回国際産業数理・応用数理会議	（変更なし）

令和4年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣

番号	国際会議等	会 期		開催地及び 用務地	派遣候補者 (職名)	備 考
			計			
1	フューチャー・アース 総会 (Assembly)	9月21日 ～ 9月23日	3日	パリ(フランス)／ ハイブリッド形式	高村 ゆかり 第一部会員 (東京大学未来ビジョン研究センター教授)	第1区分
					春日 文子 連携会員 (国立研究開発法人国立環境研究所特任フェロー)	第1区分 ※現地出席予定
					谷口 真人 連携会員 (人間文化研究機構総合地球環境学研究所 副所長・教授)	第1区分 ※現地出席予定
					調整中	第1区分

※令和4年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針（令和4年2月24日日本学術会議第322回幹事会決定）に基づく区分

○学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等
【令和4年度第3四半期】

<概要>

1. 日本学術会議主催学術フォーラム

- (1) 経費負担を要するものは、原則として年間15件程度
 (2) 経費負担又は職員の人的支援を要するものは、四半期ごとに計4件まで
 (3) 土日祝日開催のものは、四半期ごとに2件まで

○今回提案【令和4年度第3四半期】 全5件

	提案番号	テーマ	開催希望日時	開催場所	経費負担	職員の 人的支援
1	提案8	「カーボンニュートラル 実現に向けた学術の挑戦： 学術領域を超える課題と 取組」 (企画：カーボンニュート ラルに関する連絡会議)	令和4年10月 前半もしくは 11月前半	原則として オンライン 開催	要	要
2	提案9	「地域の課題解決を地球 環境課題への挑戦に結び つける超学際研究(仮題)」 (企画：フューチャー・ア ースの推進と連携に関す る委員会)	令和4年10月 9日(日) 13:30~16:15 (仮)	日本学術会 議講堂(オ ンライン併 用)	要	要
3	提案10	「安心感への多面的アプ ローチ」 (企画：総合工学委員会・ 機械工学委員会合同工学 システムに関する安全・安 心・リスク検討分科会)	令和4年10月 29日(土)ま たは11月5日 (土) 13:00~17:10	オンライン 開催	要	要
4	提案11	「ヒトゲノム編集と着床 前遺伝学的検査について 考えるー新しい医療技術 の利用のあり方(仮題)」 (企画：第二部)	令和4年11月 26日(土) 13:00~17:30 (予定)	日本学術会 議講堂(オ ンライン併 用)	要	要

5	提案 12	「地球規模のリスクに立ち向かう地域研究」 (企画：地域研究委員会地域研究基盤強化分科会)	令和4年12月 10日(土) 14:00～17:00	日本学会 議講堂(オ ンライン併 用)	要	要
---	-------	---	----------------------------------	------------------------------	---	---

(参考) -----

■今回提案を含めた合計数

1. 学術フォーラム(平日4件/土日7件/開催曜日未定1件) 全12件

(内訳) ※現在の12件中、12件は経費又は人的負担要

		第1四半期 (4月～6月)	第2四半期 (7月～9月)	第3四半期 (10月～12月)	第4四半期 (1月～3月)
学術フォー ラム	(土日)	3		4	
	(平日)		4		
	(開催曜日 未定)			1	
合計		3	4	5	

日本学術会議主催学術フォーラム
「カーボンニュートラル実現に向けた学術の挑戦：学術領域を超える課題と取組」
の開催について（案）

1. 主 催：日本学術会議
2. 日 時：令和4年10月前半もしくは11月前半
3. 場 所：原則としてオンライン
4. 委員会等の開催：なし

5. 開催趣旨：

カーボンニュートラル目標の実現には社会経済のあらゆる局面の変革が必要となります。こうした変革に向けた学術の課題はいかなるものなのか。学術領域をこえる課題に焦点を当て、主要な学術領域の研究者と行政関係者などステークホルダーが、変革に向けた学術の課題とその取組について報告し、議論を行います。

6. 次 第：

趣旨説明（10分） ※連絡会議のメンバーから

講演

- ・気候の変化（と影響）を知り、予測するーその課題（15分）

三枝 信子（日本学術会議第三部会員、国立研究開発法人国立環境研究所地球システム領域領域長）

or 高薮 縁（日本学術会議連携会員、東京大学大気海洋研究所教授、副所長）（案）

- ・未来の経済社会像を描く（15分×2）

経済社会シナリオの課題

増井 利彦（国立研究開発法人国立環境研究所社会システム領域領域長）（案）

将来の社会像を社会の構成員とつくる

西條 辰義（日本学術会議連携会員、高知工科大学フューチャー・デザイン研究所所長、総合地球環境学研究所特任教授）

or 中川 善典（日本学術会議連携会員、高知工科大学経済・マネジメント学群准教授）（案）

- ・ バイオ経済社会、森林と木材製品の利用 (15分×2)

森林の保全と利用の課題

丹下 健 (日本学術会議第二部会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授) (案)

建築物への木材利用の課題

木造建築の専門家または企業の技術者 (案)

- ・ イノベーションを生み出す (15分×1、10分×2)

- ・ 梶川 裕矢 (東京工業大学環境・社会理工学院教授) (案)

- ・ 内閣府 or 文科省から (案)

- ・ 産業界から (案)

- ・ 気候変動を統合する企業経営 (15分×1、10分×2)

- ・ 西尾 チヅル (日本学術会議第一部会員、筑波大学ビジネスサイエンス系教授) (案)

- ・ 企業からみた課題 (案)

- ・ 金融からみた課題 (案)

登壇者によるパネルディスカッション

コーディネーター： ※連絡会議のメンバーから

(下線は、日本学術会議関係者)

日本学術会議主催学術フォーラム
「地域の課題解決を地球環境課題への挑戦に結びつける
超学際研究（仮題）」の開催について（案）

1. 主 催：日本学術会議
2. 日 時：令和4年10月9日（日）13：30～16：15（仮）
3. 場 所：日本学術会議講堂（オンライン併用）
4. 委員会等の開催：開催予定あり

5. 開催趣旨：

地球規模課題の解決には、学术界、産業界、行政、市民団体などの多様なステークホルダーとの協働が不可欠であり、協働企画、協働生産、協働発信を行うトランスディシプリナリー研究（超学際研究）の推進が求められるが、その本質は、各地域での課題解決の取組に宿っている。本フォーラムでは、地域の課題解決に取り組んでいる国内外の実践的な超学際研究の好事例を紹介し、それをいかに地球規模課題の解決に資する超学際研究に結び付け、研究の推進や成果創出の加速に結び付けていけるのかについて議論する。また、当該研究分野の将来の発展に向けて研究評価の在り方や人材育成についても意見交換を行う。

6. 次 第：

開会（15分）

はじめに

趣旨説明

パネルディスカッション1：「地域の課題解決へ向けた超学際研究」

（60分：講演者10分×2＋議論40分）

モデレータ

山極 壽一（日本学術会議連携会員、大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所長）

講演者

講演：「社会と共に課題解決を進めている技術開発の取組」（仮題）

北川 尚美（日本学術会議第三部会員、東北大学大学院工学研究科教授）

講演：「貧困地域における感染症撲滅とユニバーサルヘルスカバレッジ」（仮題）

國井 修（グローバルファンド戦略・投資・効果局長）

休憩（15分）

パネルディスカッション2：「地球規模課題の解決に向けた超学際研究は果たして可能か」
（60分：講演者10分×2＋議論40分）

モデレータ

江守 正多（日本学術会議連携会員、東京大学未来ビジョン研究センター教授、国立研究開発法人国立環境研究所地球システム領域副領域長）

講演者

講演：「若手研究者は超学際研究で国際都市課題を解決するのか」（仮題）

小野 悠（日本学術会議連携会員、豊橋技術科学大学大学院工学研究科准教授）

講演：「超学際研究推進のための効果的な研究評価システムの構築」（仮題）

谷口 真人（日本学術会議連携会員、大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所副所長・教授）

まとめと今後の展望（15分）

（下線は、日本学術会議関係者）

日本学術会議主催学術フォーラム
「安心感への多面的アプローチ」の開催について（案）

1. 主 催：日本学術会議
2. 日 時：令和4年10月29日（土）または11月5日（土）13：00～17：10
3. 場 所：オンライン開催
4. 委員会等の開催：なし

5. 開催趣旨：

COVID19の大流行、異常気象、他国からの侵攻など、昨今、従来にも増して不安感の強い社会状況が続いている。一方、道路交通における自動運転など新しい技術や地球温暖化を抑制する施策の社会実装においては、その技術や施策が社会に受け入れられる形になっている必要がある。ここで、江戸時代の「知らしむべからず」施策による無知に根ざした安心感ではなく、寺田寅彦の「正当に怖がる」ことが重要である。本フォーラムでは、科学技術基本計画にも継続してうたわれている人々が安心を感じる社会を実現するために必要な科学技術について、多様な専門分野の研究者から事例や考え方をご紹介頂き、安心感の構成要素を明らかにすることで、人々が安心を感じる社会の在り方を議論する。

6. 次 第：

挨拶 吉村 忍（日本学術会議第三部部長、日本学術会議第三部会員、東京大学副学長、大学院工学系研究科教授）

講演「ソーシャルメディアと安心感」（仮題）

遠藤 薫（日本学術会議連携会員、学習院大学法学部政治学科教授）

講演「医薬品と安心感」（仮題）

土屋 文人（元日本病院薬剤師会副会長、元国際医療福祉大学教授）

講演「AIと安心感」（仮題）

佐倉 統（日本学術会議特任連携会員、東京大学大学院情報学環教授）

講演「情報ネットワークと安心感」（仮題）

柴山 悦哉（日本学術会議連携会員、東京大学情報基盤センター教授）

講演「道路交通における自動運転と安心感」（仮題）

鎌田 実（日本学術会議連携会員、一般財団法人日本自動車研究所代表理事・研究所長、東京大学名誉教授）

講演「安心感モデルの適用」（仮題）

庄司 裕子（日本学術会議連携会員、中央大学理工学部教授）

パネル討論：

司会：大倉 典子（日本学術会議第三部会員、芝浦工業大学名誉教授・SIT 総合研究所特任教授、中央大学大学院理工学研究科客員教授）

パネリスト：

辻 佳子（日本学術会議連携会員、東京大学環境安全研究センター教授）

蒲池 みゆき（日本学術会議連携会員、工学院大学副学長、情報学部教授）

+ 講演者

閉会挨拶

野口 和彦（日本学術会議連携会員、横浜国立大学 IAS リスク共生社会創造センター客員教授）

（下線は、日本学術会議関係者）

7. 関係部の承認の有無：第三部承認

日本学術会議主催学術フォーラム
「ヒトゲノム編集と着床前遺伝学的検査について考える
—新しい医療技術の利用のあり方（仮題）」の開催について（案）

1. 主 催：日本学術会議

共 催：一般社団法人日本医学会連合（予定）

2. 日 時：令和4年11月26日（土）13：00 ～ 17：30（予定）

3. 場 所：日本学術会議講堂（オンライン併用）

4. 委員会等の開催：なし

5. 開催趣旨：

近年のゲノム関連技術の進歩には目覚ましいものがある。遺伝子を簡便に操作できるゲノム編集技術や、受精卵の遺伝子解析により重篤な遺伝性疾患を避ける着床前遺伝学的検査といった技術は、病気で苦しむ患者と家族に恩恵をもたらそうとしている。一方で、そうした技術をどのような対象に適用してよいのかという課題が提示されており、技術の適用は自由にすべきという意見と、そうではなく一定の規制を課すべきという意見とがある。さらに、これらの領域では、21世紀の医療はどうあるべきかという、より大きな根本的課題が提示されているとも言える。2つの領域を取り巻く現状を共有するとともに、様々な立場からの意見を聞き、将来に向けた議論を行いたい。

6. 次 第：演題・演者等（予定）

司 会 藤井 知行（日本学術会議第二部会員、医療法人財団順和会山王病院
病院長、国際医療福祉大学大学院教授）

尾崎 紀夫（日本学術会議第二部会員、名古屋大学大学院医学系研究科
特任教授）

開会挨拶 梶田 隆章（日本学術会議会長、日本学術会議第三部会員、東京大学
宇宙線研究所教授）

門田 守人（一般社団法人日本医学会連合会長）

講演

「ヒトゲノム編集と着床前遺伝学的検査が提示する課題について」（仮題）

苛原 稔（日本学術会議特任連携会員、徳島大学大学院医歯薬学研究部長）

「2018年国際サミットでのゲノム編集による双子誕生の報告のその後について」（仮題）

加藤 和人（日本学術会議連携会員、大阪大学大学院医学系研究科教授）

「ヒトゲノム編集の臨床応用に関する英米アカデミー国際委員会の報告について」（仮題）

阿久津 英憲（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人国立成育医療研究センター研究所生殖医療研究部部長）

「法律の立場から見たヒトゲノム編集の臨床応用のガバナンス」（仮題）

高山 佳奈子（日本学術会議第一部会員、京都大学大学院法学研究科教授）

「哲学・倫理の観点からみたヒトゲノム編集の臨床応用」（仮題）

香川 知晶（日本学術会議連携会員、山梨大学名誉教授、同大学研究員）

「着床前遺伝学的検査の基礎および生命倫理から見た着床前遺伝学的検査」

三上 幹男（日本学術会議特任連携会員、東海大学医学部医学科専門診療学系産婦人科学教授）

「遺伝医学の観点から見た着床前遺伝学的検査」

戸田 達史（日本学術会議第二部会員、東京大学大学院医学系研究科脳神経医学専攻臨床神経精神学講座神経内科学分野教授）

「患者の立場から」（仮題）

野口 麻衣子（RBピアサポートの会）

利光 恵子（立命館大学生存学研究所客員研究員/グループ生殖医療と差別）

総合討論（約1時間半を予定）

司会進行：加藤 和人（再掲）

指定発言：青野 由利（科学ジャーナリスト、毎日新聞客員編集委員）

閉会挨拶 武田 洋幸（日本学術会議第二部部長、日本学術会議第二部会員、東京大学執行役・副学長、大学院理学系研究科教授）

（下線は、日本学術会議関係者）

7. 関係部の承認の有無：第二部承認

日本学術会議主催学術フォーラム
「地球規模のリスクに立ち向かう地域研究」の開催について（案）

1. 主 催：日本学術会議
2. 日 時：令和4年12月10日（土）14：00 ～ 17：00
3. 場 所：日本学術会議講堂（オンライン併用）
4. 委員会等の開催：なし

5. 開催趣旨：

地球規模で生じるリスクに対して、いかに地域研究が有効であるか、すなわち世界への学際的な知の接近方法を社会とりわけ若い人たちに示す。具体的には、ロシアによるウクライナ侵攻を取りあげる。

令和4年（2022年）2月24日のロシアによるウクライナ侵攻は、「新冷戦」と言われてきた時代を突如、熱くしてしまい、現地の人々の暮らしを破壊するだけでなく、地球規模で経済的混乱をもたらした。4ヶ月が過ぎた現時点でその解決の見通しはまだ立っていない。この問題について、すでにマスコミ等で多くの研究者が発言を求められ、解説を続けてきた。また、日本学術会議でも政治学委員会国際政治分科会が「ウクライナ戦争の勃発と《共通の安全保障》のゆくえ」と題するシンポジウムを7月に実施する予定であり、さらに史学委員会・言語・文学委員会・哲学委員会・地域研究委員会合同の「アジア研究・対アジア関係に関する分科会」が中心となり、9月にもシンポジウムが予定されている。本フォーラムでは、学術会議を社会とりわけ若い世代と結ぶことを目的とし、15分という短めの解説を多層化するという方法論を採用し、これまであまり語られてこなかった切り口を盛り込みながら、総合的に現代世界を説明する。

6. 次 第：

- | | |
|-------|--|
| 14:00 | 挨拶・趣旨説明
小長谷 有紀（日本学術会議第一部会員、独立行政法人日本学術振興会監事） |
| | 講演 |
| 14:05 | ソ連帝国の複雑な影：ロシア・ウクライナ・中央アジア
宇山 智彦（日本学術会議第一部会員、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授） |
| 14:20 | ロシアのフェイクニュースの作り方
藤原 潤子（神戸市外国語大学准教授） |

- 14:35 ユダヤ系大統領のもとで団結する多民族国家ウクライナ
赤尾 光春（大阪経済法科大学研究員）
- 14:50 中国の戸惑いと東アジア情勢への影響
川島 真（日本学術会議連携会員、東京大学大学院総合文化研究科教授）
- 15:05 インドの曖昧な態度とクアッドへの影響
中溝 和弥（日本学術会議連携会員、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授）
- 15:20 ロシア・ウクライナ・NATO の間で立ち回るトルコ
今井 宏平（アジア経済研究所研究員）
- 15:35 ヨーロッパ諸国の大きな役割と多様な現実
東野 篤子（筑波大学人文社会系教授）
- 15:50 アフリカ諸国の複雑な態度と食糧危機の懸念
武内 進一（東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授）
- 16:05 難民問題の視点から
錦田 愛子（慶應義塾大学法学部准教授）
- 16:20 総合討論（上記9発表のうち4人程度で）
司会 小長谷 有紀（再掲）
- 16:55 閉会挨拶（未定）

（下線は、日本学術会議関係者）

7. 関係部の承認の有無：第一部承認

公開シンポジウム

「日本の社会・産業をリードする化学系博士人材とは
～産学で取り組む博士人材育成と、これから博士を目指す学生への期待～（仮題）」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議化学委員会、化学委員会化学企画分科会
2. 共 催：未定（今後関連学協会と調整予定）
3. 後 援：未定（今後関連学協会と調整予定）
4. 日 時：令和4年（2022年）11月5日（土）10：00～17：30（仮）
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）（ハイブリッド開催）
6. 分科会等の開催：未定
7. 開催趣旨：

長年の課題である博士進学者減少・博士人材育成問題への取組の一環として、特に化学系博士・企業に焦点を当て、企業が有能な博士人材を積極的に採用していること、結果として博士人材が企業で活躍できていることを学生に伝えることで、学生の博士進学の中を押しとともに、求められる博士人材像を明示し、博士課程で企業・社会で活躍でき価値を認められるような人材育成を支援する。
8. 次 第：

挨拶

10:00 開会挨拶・趣旨説明
関根 千津（日本学術会議第三部会員、株式会社住化技術情報センター代表取締役社長）

基調講演

◇司会 未定

10:10 基調講演『（仮）企業で活躍する博士人材』
 平井 良典（AGC株式会社代表取締役兼社長執行役員）

10:40 講演1『（仮）博士課程進学に関する学生の意識調査と望まれる支援策』
 西村 君平（東北大学大学院理学研究科特任講師）

11:20 講演2『（仮）企業が求める博士人材像とは』

垣本 昌久 (三菱ケミカルホールディングスグループ経営企画部長)

休憩 (60 分) (12 : 00~13 : 00)

13:00 講演3 『(仮) なぜ博士号が必要なのか』

住田 佳代 (住友化学株式会社理事・バイオサイエンス研究所所長)

13:40 講演4 『(仮) 中規模企業における博士人材のニーズ』

未定

14:20 講演5 『(仮) 大学院教育に求められるもの』

杉森 純 (読売新聞調査研究本部主任研究員)

15:00 講演6 『(仮) 博士人材と企業をつなぐ』

吉原 拓也 (北海道大学大学院教育推進機構先端人材育成センター長、教授)

総合討論

◇司会 未定

15:55 講演者と主催委員会委員によるパネルディスカッション

クロージング

17:20 閉会挨拶

茶谷 直人 (日本学術会議第三部会員、大阪大学名誉教授)

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

10. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催委員会 (分科会) 委員)

公開シンポジウム
「URSI 日本生誕 100 周年記念シンポジウム
－日本の電波科学研究の発展並びに URSI 日本の歩み－」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議電気電子工学委員会 URSI 分科会
2. 共 催：URSI 日本生誕 100 周年記念シンポジウム実行委員会、国際電波科学連合 (URSI) (申請予定)
3. 後 援：日本政府観光局 (申請予定)
4. 日 時：令和 4 年 (2022 年) 11 月 12 日 (土) 10:00 ~ 19:00
5. 場 所：日本学術会議講堂、5-A (1) 会議室 (東京都港区六本木 7-22-34) (ハイブリッド開催) (※5-A (1) 会議室は、表敬訪問を行うため使用)
6. 分科会等の開催：開催予定なし

7. 開催趣旨：

本シンポジウムは、日本学術会議電気電子工学委員会 URSI 分科会が中心となって準備を進めている「第 35 回 URSI 総会」(2023 年 8 月に札幌市で開催予定)の重要な関連事業である。国際電波科学連合 (URSI) は 1919 年に設立された。日本が URSI に加入したのは 1922 年 (URSI 設立の 3 年後) である。よって、2022 年は URSI 日本の設立 100 周年に当たる重要な年である。本シンポジウムでは、URSI 日本の誕生 (1922 年) から現在に至る歴史、URSI 活動への我が国の貢献、及び我が国における最先端の電波科学研究を概観し、電波科学分野の研究者及び一般社会に向けて電波科学の重要性を広く訴えることを目的としている。

本シンポジウム開催に際し、URSI トップの役員等 9 名 (URSI 会長、URSI 元会長、URSI 副会長、URSI 事務局長、URSI 副事務局長) を招聘し、シンポジウムでのご挨拶、URSI 設立 100 周年記念講演等を行っていただく。URSI 本部役員にシンポジウムにご出席いただくことにより、電波科学に関する URSI 日本の 100 年の歴史及び最先端の電波科学研究を知っていただき、併せて 2023 年 URSI 札幌総会の準備状況を確認いただくことができ、有用である。なお、シンポジウム当日の午後には、URSI 本部役員による日本学術会議の梶田会長及び高村副会長、国際学術会議の小谷次期会長への表敬訪問も予定している。日本学術会議は今、国際ユニオンとの連携を深めることを重要課題としているが、この表敬訪問の

場では URSI、日本学術会議、国際学術会議の間の国際連携に関する懇談も行っていただく予定である。

シンポジウム第一部は主催団体代表挨拶、母体団体代表挨拶、来賓挨拶、及び URSI 事務局長による URSI 設立 100 周年記念講演を予定している。その後、URSI 本部役員による上述の表敬訪問を経て、午後の第二部・第三部では、電波科学分野における著名な日本人研究者に特別講演を行っていただく。第二部・第三部の特別講演は、URSI 本部役員に日本の最先端の電波科学研究を知っていただく良い機会になると思われる。

8. 次 第：※本シンポジウムの使用言語は英語とする。

第一部「URSI 日本生誕 100 周年記念セッション」

◇第一部総合司会

小林 一哉（日本学術会議連携会員、中央大学理工学部教授）

- 10:00 開会の辞・主催団体代表挨拶
八木谷 聡（日本学術会議連携会員、金沢大学理工研究域電子情報通信学系教授）
- 10:05 母体団体代表挨拶
梶田 隆章（日本学術会議会長、第三部会員、東京大学宇宙線研究所教授）
- 10:15 母体団体代表挨拶
Piergiorgio L. E. Uslenghi（URSI 会長、米国・イリノイ大学シカゴ校卓越名誉教授）
- 10:25 母体団体代表挨拶
Peter Van Daele（URSI 事務局長、ベルギー・アントワープ大学教授）
- 10:33 母体団体代表挨拶
Patricia Doherty（URSI 副会長、米国・ボストンカレッジ科学研究所所長・主幹研究員）（予定）
- 10:40 来賓挨拶（オンライン）
小谷 元子（日本学術会議連携会員、東北大学理事・副学長）
- 10:50 来賓挨拶
松本 紘（京都大学名誉教授、公益財団法人国際高等研究所所長）
- 11:00 来賓挨拶
安藤 真（日本学術会議連携会員、東京工業大学名誉教授）
- 11:10 URSI 設立 100 周年記念講演
International Union of Radio Science: 100 years history
（国際電波科学連合 100 年の歴史）
Peter Van Daele（URSI 事務局長、ベルギー・アントワープ大学教授）

表敬訪問関係者 昼休み (50 分) (12:10~13:00)

一般参加者 昼休み (95 分) (12:10~13:45)

13:00 URSI 本部役員による日本学術会議会長、国際学術会議次期会長への表敬訪問

・ 日本学術会議側出席者

梶田 隆章 (日本学術会議会長、第三部会員、東京大学宇宙線研究所教授)

高村 ゆかり (日本学術会議副会長、第一部会員、東京大学未来ビジョン研究センター教授) (オンライン)

小谷 元子 (日本学術会議連携会員、東北大学理事・副学長) (オンライン)

・ URSI 側出席者

Piergiorgio L. E. Uslenghi (URSI 会長、米国・イリノイ大学シカゴ校卓越名誉教授)

Paul S. Cannon (URSI 元会長、英国・バーミンガム大学教授)

Peter Van Daele (URSI 事務局長、ベルギー・ゲント大学教授)

Patricia Doherty (URSI 副会長、米国・ボストンカレッジ科学研究所所長・主幹研究員)

Giuliano Manara (URSI 副会長、イタリア・ピサ大学教授)

Ari Sihvola (URSI 副会長、フィンランド・アールト大学教授)

Stefan Wijnholds (URSI 副事務局長、オランダ・オランダ電波天文学研究所 (アストロン) 上級研究員)

Willem Baan (URSI 副事務局長、オランダ・オランダ電波天文学研究所 (アストロン) 名誉上級研究員)

W. Ross Stone (URSI 副事務局長、米国・Stoneware Ltd. 代表)

安藤 真 (日本学術会議連携会員、東京工業大学名誉教授)

小林 一哉 (日本学術会議連携会員、中央大学理工学部教授)

松本 紘 (京都大学名誉教授、公益財団法人国際高等研究所所長)

八木谷 聡 (日本学術会議連携会員、金沢大学理工研究域電子情報通信学系教授)

第二部「日本における最先端の電波科学研究及び将来展望 1」

◇第二部総司会

芳原 容英 (日本学術会議特任連携会員、電気通信大学大学院情報理工学研究科情報・ネットワーク工学専攻教授)

13:45 特別講演

Study of electromagnetic noise for 50 years

(電磁雑音との50年の付き合い)

早川 正士 (電気通信大学名誉教授、株式会社早川地震電磁気研究所代表取締役)

14:30 特別講演

URSI-Japan centennial celebration and Women in Radio Science

(URSI 日本生誕 100 周年と電波科学における女性研究者)

黒田 道子 (日本学術会議連携会員、東京工科大学名誉教授)

15:15 特別講演

Radio astronomy - A century of the history

(電波天文学 100 年のあゆみ)

新永 浩子 (日本学術会議連携会員、鹿児島大学学術研究院理工学域理学系物理・宇宙専攻宇宙情報講座准教授)

休憩 (30 分) (16:00~16:30)

第三部「日本における最先端の電波科学研究及び将来展望 2」

◇第三部総合司会

八木谷 聡 (日本学術会議連携会員、金沢大学理工研究域電子情報通信学系教授)

16:30 特別講演

Integration of ICT and AI data science for SDGs and innovation in medical healthcare and automotive industries

(SDGs を達成する ICT・AI データサイエンス融合技術と医療・自動車の融合産業イノベーション)

河野 隆二 (日本学術会議連携会員、横浜国立大学名誉教授)

17:15 特別講演

Active experiments of plasma wave excitation in space environments

(宇宙環境におけるプラズマ波動励起の能動実験)

大村 善治 (京都大学生存圏研究所教授)

18:00 特別講演

Therapeutic technologies of electromagnetic fields for cancer treatment

(がん治療に貢献する電磁界技術)

伊藤 公一 (日本学術会議特任連携会員、千葉大学名誉教授・客員教授)

18:45 閉会の辞

小林 一哉 (日本学術会議連携会員、中央大学理工学部教授)

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

10. 関係する委員会等連絡会議の有無：「持続可能な発展のための国際基礎科学年
2022」（IYBSSD2022）連絡会議

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「物理学のアプローチが拓く世界とその展開」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議物理学委員会
2. 共 催：一般社団法人日本物理学会、公益社団法人日本天文学会、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構、大阪大学核物理研究センター、大学共同利用機関法人自然科学研究機構核融合科学研究所、九州大学応用力学研究所、京都大学基礎物理学研究所、大学共同利用機関法人自然科学研究機構国立天文台、大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構、東京大学宇宙線研究所、東京大学物性研究所（交渉中）
3. 後 援：公益社団法人応用物理学会（交渉中）
4. 日 時：令和4年（2022年）11月20日（日）12：30～17：45
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）（ハイブリッド開催）
6. 分科会等の開催：開催予定あり

7. 開催趣旨：

物質の性質、天体活動、宇宙の成り立ちなど一見異なる現象を幅広く取り扱う物理学は、数理や先端的な技術に基づく現象の解明を基盤とし発展を続けている。また、先端的な物理学研究がもたらす新しい技術は物理学分野を超えて他の分野でも活用されている。このシンポジウムは、「未来の物理学の広がり」を出来るだけ分かり易く講演者が解説し、聴衆と対話を通じて、基礎科学の（1）学術としての意義・面白さ、（2）人材育成、国際化の持つ重要性、（3）社会への貢献・イノベーションの源泉としての科学の役割について、理解を深めることを目的とする。加えて、総合討論において、若手研究者や学生を交えて、日本の科学研究の進め方について議論を行う。

なお、2022年はIUPAP 100周年や「持続的発展のための国際基礎科学年（IYBSSD）」に当たっている。本シンポジウムはIYBSSDの趣旨を市民と考える活動の一環としても重要な役割を果たすことが期待される。また、2018年に開催され書籍化された、公開シンポジウム「基礎科学研究の意義と社会」の後継企画となっている。

8. 次 第 : 12 : 30 ~ 17 : 45

趣旨説明 野尻 美保子 (日本学術会議第三部会員、高エネルギー加速器研究機構素粒子原子核研究所教授)

挨拶 梶田 隆章 (日本学術会議会長、第三部会員、東京大学宇宙線研究所教授)

挨拶 田島 節子 (日本学術会議連携会員、大阪大学名誉教授)

12 : 45 ~ 14 : 15 第1セッション 物理学のアプローチ～自然の理解とその展開 I

司会 森 初果 (日本学術会議第三部会員、東京大学物性研究所教授、所長)

高柳 匡 (京都大学基礎物理学研究所教授)

「量子ビットから生まれる宇宙」

有馬 孝尚 (東京大学大学院新領域創成科学研究科教授)

「物質科学研究における先端計測」

唯 美津木 (日本学術会議連携会員、名古屋大学教授)

「燃料電池セル内の反応を知る」

休憩 (15分) (14 : 15 ~ 14 : 30)

14 : 30 ~ 16 : 30 第2セッション 物理学のアプローチ～自然の理解とその展開 II

司会 市川 温子 (日本学術会議連携会員、東北大学大学院理学研究科教授)

深川 美里 (日本学術会議連携会員、自然科学研究機構国立天文台教授)

「宇宙における惑星系の誕生 (仮)」

浅井 歩 (日本学術会議連携会員、京都大学大学院理学研究科附属天文台准教授)

「太陽活動と地球」

吉田 善章 (日本学術会議連携会員、自然科学研究機構核融合科学研究所所長)

「プラズマサイエンスの未来」

齊藤 直人 (高エネルギー加速器研究機構素粒子原子核研究所所長)

「加速器で明らかにする宇宙と物質の起源と進化」

休憩 (15分) (16 : 30 ~ 16 : 45)

16：45～17：45 第3セッション 物理というキャリアパス

司会 生田 ちさと（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所学際科学研究系准教授（宇宙科学広報・普及主幹付））

コメント

奥村 幸子（日本学術会議連携会員、日本女子大学理学部数物科学科教授）

「天文学キャリアパスアンケートから」

岡 眞（日本学術会議連携会員、日本原子力開発機構原子力科学研究部門先端基礎研究センター研究員）

「物理教育における諸課題」

総合討論

モデレーター 中野 貴志（日本学術会議連携会員、大阪大学核物理研究センター教授）

閉会挨拶 腰原 伸也（日本学術会議第三部会員、東京工業大学理学院教授）

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

10. 関係する委員会等連絡会議の有無：「持続可能な発展のための国際基礎科学年 2022」（IYBSSD2022）連絡会議

（下線の講演者等は、主催委員会委員）

公開シンポジウム

「経営学分野における若手研究者の育成のために、今、何が求められているのか？
研究業績の評価と関連して」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議経営学委員会経営学分野における研究業績の評価方法を検討する分科会
2. 共 催：経営関連学会協議会
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和4年（2022年）11月27日（日）13：30～16：30
5. 場 所：日本学術会議講堂 会議室5-A(1)、(2)（東京都港区六本木7-22-34）
（会議室5-A(1)、(2)は分科会開催及び登壇者との打合せ・控室のため使用）
6. 分科会等の開催：開催予定あり
7. 開催趣旨：

本シンポジウムは、報告「経営学分野における研究評価の現状と課題」（本年3月22日公表）の内容を研究評価に携わる関係者に直接伝えるとともに、経営学分野における若手研究者の育成という観点から議論を深めることを意図している。

欧米を中心に国際的に普及してきた研究業績の外形的評価については、既に欧米ではその弊害が報告されるようになってきており、経営学分野における研究の領域の細分化と研究方法の多様性という現状を考慮した上で、慎重な適用の必要とされる段階が日本でも近づきつつある。外形的評価に関する理解を深め、副作用の発生を未然に防ぐための知恵を、若手研究者を含む大学関係者とともに、絞るための機会を提供する。

研究業績の評価に関する以上の議論を踏まえた上で、経営学分野における若手研究者の育成のために必要とされていることを、特に若手研究者の声に耳を傾けた上で、学会あるいは大学の運営に携わっている世代の研究者と議論することを通じ、今後へ向けた問題意識を広く共有することを目的とする。

8. 次 第:

13:30 開会の挨拶
徳賀 芳弘 (日本学術会議連携会員、京都先端科学大学経済経営学部
長・研究科長・教授)

第1セッション 講演

◇司会 西尾 チヅル (日本学術会議第一部会員、筑波大学ビジネスサイエンス
系教授)

13:40 報告『経営学分野における研究評価の現状と課題』の概要
野口 晃弘 (日本学術会議第一部会員、名古屋大学経済学研究科教授)
休憩 (10分) (14:20~14:30)

第2セッション

経営学分野における若手研究者育成に関するパネルディスカッション

◇座長 上林 憲雄 (経営関連学会協議会理事長、日本学術会議連携会員、神戸
大学大学院経営学研究科教授)

14:30 趣旨説明

14:40 1. 経営学
庭本 佳子 (神戸大学大学院経営学研究科准教授)

15:00 2. 商学
瓜生原 葉子 (日本学術会議連携会員、同志社大学商学部教授)

15:20 3. 会計学
高田 知実 (日本学術会議連携会員、神戸大学大学院経営学研究科教
授)

休憩 (10分) (15:40~15:50)

15:50 討論

16:30 閉会の挨拶
上野 恭裕 (日本学術会議連携会員、関西大学社会学部教授)

9. 関係部の承認の有無: 第一部承認

10. 関係する委員会等連絡会議の有無: 無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム
「地球の未来を切り拓く－育種学の役割－（第2回「企業から見た育種学の未来」）」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会育種学分科会
2. 共 催：一般社団法人日本育種学会
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和4年（2022年）8月5日（金）15：00～17：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 分科会等の開催：未定

7. 開催趣旨：

地球規模の気候変動による生産減少、世界的な食料需要の増大、我が国の食料自給率の低下など食糧の安定供給に対する国民の不安が高まっている。その一方で、スマート農業の実践、AIの利用、ゲノム科学による革新的な育種の可能性など、新たな革新も進んでいる。

育種学分科会では、30年後、50年後の社会のために育種学は何にどう取り組むべきかを広い視野で考え直す必要があると考え、一般社団法人日本育種学会との共催で公開シンポジウム「地球の未来を切り拓く－育種学の役割－」を開催する。本シンポジウムでは、将来の育種学を考える上で指針となる広い知見を提供していただける先生方を講師に招き、育種学に関わる研究者や学生だけではなく、一般の方々も含め議論する。連続開催の公開シンポジウム第2回は「企業から見た育種学の未来」というテーマで開催する。

8. 次 第：

挨拶

15:00 開会の挨拶及び趣旨の説明

中園 幹生（一般社団法人日本育種学会副会長、名古屋大学大学院生命農学研究科教授）

第1セッション「講演会」

◇総合司会

磯部 祥子（公益財団法人かずさ DNA 研究所先端研究開発部室長）

15:05 「民間種苗会社から見た育種学の貢献と今後への期待：アカデミアと産業界のはざままで」

福岡 浩之（タキイ種苗（株）研究農場副農場長）

休憩（10分）（15:50～16:00）

第2セッション「パネルディスカッション」

◇総合司会

吉田 薫（日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科特任教授）

16:00 パネルディスカッション

福岡 浩之（タキイ種苗（株）研究農場副農場長）

近藤 友宏（（株）日本農林社代表取締役社長）

江面 浩（日本学術会議連携会員、筑波大学生命環境系教授、つくば機能植物イノベーション研究センター長、サナテックシード（株）技術担当取締役）

磯部 祥子（公益財団法人かずさ DNA 研究所先端研究開発部室長）

横井 修司（大阪公立大学大学院農学研究科教授）

閉会の挨拶

経塚 淳子（日本学術会議第二部会員、東北大学生命科学研究科教授）

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

10. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「越境しあうインフラガバナンス ー性能とサービスをつなぐー」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議土木工学・建築学委員会インフラ高度化分科会
2. 共 催：公益社団法人土木学会、一般社団法人日本建築学会（予定）
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和4年（2022年）8月10日（水）13：30～17：00
5. 場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）（ハイブリッド開催）
6. 分科会等の開催：開催予定あり

7. 開催趣旨：

気候変動により災害発生メカニズムが変化するとともに、社会からの要請も変化しつつある。一方、インフラは、大規模修繕・更新の時期を迎えている。最新の技術成果を取り入れたスマートなインフラの新設・更新戦略は、インフラシステムの高度化を通じて国土、都市・地域の再生・更新の先導役を果たす。一方、インフラの計画論と個別施設の設計論の間には埋め切れないギャップが存在する。インフラシステムに期待されるサービス水準と性能を結びつけるインターフェイスの設計に、深い想定壁がある。この壁をいかに越境するか？インフラは日々の生活を支える基盤であり、現実世界の現場では、答えを出していかなければならない。インフラシステムの高度化戦略には、インフラ性能高度化のための技術開発、アセットマネジメント技術の高度化、インフラ性能の評価・モニタリングとアセスメント技術の実装、インフラ DX の推進と制度基盤の発展などが含まれる。本シンポジウムを通じ、サービス水準と性能に着目し、越境しあうインフラガバナンスについて議論したい。

8. 次 第：

総合司会 小野 潔（日本学術会議連携会員、早稲田大学理工学術院教授）

13：30 趣旨説明

高橋 良和（日本学術会議連携会員、京都大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻教授）

13：40 越境するインフラガバナンス

小林 潔司（日本学術会議第三部会員、京都大学名誉教授、京都大学経営管理大学院特任教授・客員教授）

14：10 性能保証型インフラアセットマネジメントの方法論

玉越 隆史（国土交通省国土技術政策総合研究所道路構造物研究部道路構造物機能復旧研究官、京都大学経営管理研究部特命教授）

14：40 変容 (Transformation) 論

小池 俊雄 (日本学術会議第三部会員、国立研究開発法人土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター (ICHARM) センター長、東京大学名誉教授、政策研究大学院大学連携教授)

15：10-15：30 (休憩)

15：30 パネルディスカッション 越境しあうインフラとは？

(座長) 小林 潔司 (日本学術会議第三部会員、京都大学名誉教授、京都大学経営管理大学院特任教授・客員教授)

(コメンテーター) 天野 玲子 (日本学術会議連携会員、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構監事、国立研究開発法人防災科学技術研究所参与)

小池 俊雄 (日本学術会議第三部会員、国立研究開発法人土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター (ICHARM) センター長、東京大学名誉教授、政策研究大学院大学連携教授)

佐々木 葉 (日本学術会議第三部会員、早稲田大学理工学術院教授)

多々納 裕一 (日本学術会議連携会員、京都大学防災研究所社会防災研究部門教授)

那須 清吾 (日本学術会議連携会員、高知工科大学学長特別補佐)

16：50 とりまとめと閉会の挨拶

竹脇 出 (日本学術会議連携会員、京都大学大学院工学研究科建築学専攻教授)

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

10. 関係する委員会等連絡会議の有無：「持続可能な発展のための国際基礎科学年 2022」
(IYBSSD2022) 連絡会議

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム

『日本学術会議食料科学委員会・農学委員会合同農芸化学分科会主催
連続公開シンポジウム「SDGs 達成に向けた農芸化学の挑戦」
第三回「微生物や微生物菌叢への革新的機能付与・機能制御の新展開」』
の開催について

1. 主 催：日本学術会議食料科学委員会・農学委員会合同農芸化学分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：公益社団法人日本農芸化学会、公益社団法人日本生物工学会、一般社団法人
先端バイオ工学推進機構、東京大学微生物科学イノベーション連携研究機構、
筑波大学微生物サステイナビリティ研究センター
4. 日 時：令和4年（2022年）8月18日（木） 13：00 ～ 16：35
5. 場 所：オンライン開催
6. 分科会等の開催：開催予定なし

7. 開催趣旨：

近年、微生物菌叢の集団形成や社会性に関する理解が飛躍的に進み、菌叢の機能創発や制御による応用展開が可能になりつつある。例えば、環境微生物菌叢の機能創発や制御による様々な物質の分解や再利用、食糧増産への展開、あるいは生態系の維持が進められようとしている。また、我々の腸内細菌叢に関する知見も飛躍的に深まっており、その制御による健康増進や癌等の疾患治療の可能性が高まっている。一方、合成バイオ×デジタル×ロボティクス技術を活用することで、革新的な新機能を持った微生物を創製することが迅速にできるようになってきている。人工的な酵素遺伝子を導入した人工代謝経路を実装した微生物により様々な物質生産が可能となりつつあり、従来微生物が作りえないと考えられていたような化合物の合成も可能になりつつある。さらには、菌叢の機能創発がレアメタル資源回収やリサイクルに役立ち、半導体結晶合成も期待される。このように、微生物への革新的な新機能付与や菌叢の機能創発・制御により、SDGs 達成に向けた様々な社会課題解決の可能性が高まっている。本講演会では、こうした点に関しての現状や将来展望に関して、日本を代表する6名の研究者に講演をいただく。

8. 次 第：

13：00～13：05 開会の挨拶

稲垣 賢二（日本学術会議連携会員、岡山大学学術研究院環境生命科学学域特任教授）

13：05～13：10 来賓挨拶

松山 旭（公益社団法人日本農芸化学会会長）

13：10～13：20 本シンポジウムの趣旨説明

近藤 昭彦（日本学術会議連携会員、神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科教授・研究科長）

13：20～13：45 講演

「腸内環境の制御による新たな疾患予防・治療基盤技術の創出」

福田 真嗣（慶應義塾大学先端生命科学研究所特任教授）

座長：近藤 昭彦（日本学術会議連携会員、神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科教授・研究科長）

13：45～14：10 講演

「微生物は集団になり社会性を創発する～微生物も群れて会話する～」

野村 暢彦（筑波大学生命環境系教授）

座長：西山 真（日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

14：10～14：35 講演

「細菌でレアメタルを集める！」

岡村 好子（日本学術会議連携会員、広島大学大学院統合生命科学研究科教授）

座長：古園 さおり（東京大学大学院農学生命科学研究科准教授）

14：35～14：45 休憩

14：45～15：10 講演

「H' OME～身近な微生物と共に生きるための古くて新しい住まい方」

藤吉 奏（広島大学 IDEC 国際連携機構助教）

座長：岡村 好子（日本学術会議連携会員、広島大学大学院統合生命科学研究科教授）

15：10～15：35 講演

「合成生物学×ポリマー科学=GX ～カネカ生分解性バイオポリマーGreen Planet®の挑戦～」

佐藤 俊輔 ((株) カネカ アグリバイオ&サプリメント研究所 GreenPlanet 研究グループリーダー)

座長：竹山 春子 (早稲田大学大学院先進理工学研究科教授)

15：35～16：00 講演

「Bio Revolution：バイオ・デジタル・ロボティクス融合 のインパクト」

近藤 昭彦 (日本学術会議連携会員、神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科教授・研究科長)

座長：油谷 幸代 (国立研究開発法人産業技術総合研究所生命工学領域研究企画室室長)

16：00～16：30 パネルディスカッション

「これからの応用微生物学」

進行：近藤 昭彦 (日本学術会議連携会員、神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科教授・研究科長)

パネリスト：福田 真嗣、野村 暢彦、岡村 好子、藤吉 奏、佐藤 俊輔
竹山 春子、古園 さおり、油谷 幸代

16：30～16：35 閉会の挨拶

岡村 好子 (日本学術会議連携会員、広島大学大学院統合生命科学研究科教授)

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

10. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム
「法獣医学の世界」の開催について

1. 主 催：日本学術会議食料科学委員会獣医学分科会
2. 共 催：公益社団法人日本法獣医学会、北海道大学大学院獣医学研究院（予定）、日本獣医生命科学大学（予定）
3. 後 援：公益社団法人日本獣医学会（申請予定）
4. 日 時：令和4年（2022年）9月3日（土）13：30～16：05
5. 場 所：オンライン開催（北海道大学獣医学研究院より配信）
6. 分科会等の開催：未定

7. 開催趣旨：

「法獣医学」は、日本ではまだ黎明期となる新しい学術分野です。法獣医学は、動物の状態や置かれた環境を分析し、動物の不審死や不自然な病態の原因を同定する動物福祉と公衆衛生に大きくかかわる学問分野です。物言わぬ動物たちが示す様々なサインを見逃さず、何が彼らの身に起こっていたのかを科学的に分析します。このシンポジウムでは、日本で新しく始まった法獣医学への取組を紹介します。

8. 次 第：

（司会）内田 和幸（東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

13:30-13:35 開会の挨拶

高井 伸二（日本学術会議第二部会員、北里大学名誉教授）

（1）講演

座長 高橋 真吾（東京都福祉保健局健康安全部健康危機管理推進担当課長）

佐伯 潤（帝京科学大学生命環境学部アニマルサイエンス学科教授）

13:35-14:15 「法獣医学と日本法獣医学会」

田中 亜紀（日本法獣医学会会長）

14:15-14:40 「法獣医学の実際：虐待の現場から」

木原 友子（日本獣医生命科学大学獣医学部助教）

- 14:40-15:05 「法獣医学の実際：分析の現場から」
池田 良徳（北海道大学大学院獣医学研究院教授）
15:05-15:30 「法学からみた法獣医学（仮題）」
三上 正隆（愛知学院大学法学部教授）

(2) 総合討論

- 座長 松本 周（東京都動物愛護相談センター多摩支所長）
川本 恵子（麻布大学獣医学部教授）

- 15:30-16:00 「これからの法獣医学」
各講演者および座長

- 16:00-16:05 閉会の挨拶

石塚 真由美（日本学術会議第二部会員、北海道大学大学院獣医学研究院教授、公益社団法人日本獣医学会常任理事）

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

10. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「那須地域から考える 20 年後の日本社会
ー共領域におけるイノベーション創出と地方創生ー」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議若手アカデミー及び所属分科会（イノベーションに向けた社会連携分科会、地域活性化に向けた社会連携分科会）
2. 共 催：一般社団法人ナスコンバレー協議会
3. 後 援：一般社団法人ナスコンバレー協議会の連携企業等（予定）
（VFR 株式会社、VUILD 株式会社、株式会社エッセンス、株式会社キッズコーポレーションホールディングス、住友生命保険相互会社、SOMPO Light Vortex 株式会社、株式会社チェンジ、株式会社トラストバンク、株式会社博報堂、プライム ライフ テクノロジーズ株式会社、NPO 法人ミラック、U3 イノベーションズ合同会社他）
4. 日 時：令和 4 年（2022 年）9 月 5 日（月）14：00 ～ 17：00
5. 場 所：那須ハイランドパーク イベント館（栃木県那須郡那須町高久乙 3375）
※新型コロナウイルス感染拡大の状況によってオンライン開催に変更
6. 分科会等の開催：開催予定あり

7. 開催趣旨：

イノベーション創出と地方創生は日本社会における喫緊の課題である。若手アカデミーでは、「20 年後の科学・学術と社会を見据えたリモデリング戦略を考える」というヴィジョンを持ち、イノベーション創出や地方創生をミッションの一つとしている。イノベーションに向けた社会連携分科会では、イノベーションが起きづらい背景の一つとして領域ごとの縦割り文化があると考えている。また、地域活性化に向けた社会連携分科会では、地方創生にはイノベーションが必要であると考え、イノベーションが地域に浸透する方略について議論を行ってきた。都心から新幹線で約 1 時間、広大な高原自然に恵まれた栃木県那須地域にある「ナスコンバレー」は、21 世紀型社会に求められるソリューション（エコシステム、サービス、製品）の共創・実証実験・社会実装の場を提供し、社会・社会人・市民を中心に、未来社会の現実解となるソリューションを共創していく国内最大規模のリ

ビングラボで、各領域を越境する人材（インタープレナー）が集い、様々な取組が展開される「共領域」となっている。広大な実証フィールドを活用し、ドローンの社会実装を進めるための活動や、次世代ハウジング（新コンセプトの住まい）、Well-being（幸福度の高い地域社会、コミュニティのモデルづくり）を進める活動等を行っている。また、ナスコンバレーでの取組は、那須地域が抱える社会課題（経済・産業の衰退、情報発信不足、少子化、人口流出等）をも解決し地方創生に資する活動となっている。那須地域の社会課題は当該地域固有のものではなく、現在の日本社会が抱える課題に通ずる構造を持っており、インタープレナーがナスコンバレーで行う課題解決への取組は、日本社会の課題解決について多くの示唆をもたらすと考えられる。本シンポジウムでは、那須地域が抱える課題を解決するために展開されているナスコンバレーでの取組を紹介し、イノベーション創出と地方創生に取り組む方、さらには、これらの取組をより広い視野でとらえるために専門家を招いて、那須地域、広くは20年後の日本社会についてフロアと共に議論する。これにより、イノベーション創出と地方創生を行うための手がかりを得る。

8. 次 第：

司会 高瀬 堅吉（日本学術会議連携会員、若手アカデミー会員、中央大学大学院文学研究科心理学専攻教授）

14：00 開会の挨拶と趣旨説明

加藤 千尋（日本学術会議連携会員、若手アカデミー会員、弘前大学農学生命科学部准教授）

14：10 第1部 話題提供（各10～20分）

- ・那須地域概略説明

八木澤 玲玖（株式会社那須旅代表取締役社長）

- ・ナスコンバレーでの取組①

留目 真伸（一般社団法人ナスコンバレー協議会理事、SUNDRE 株式会社代表取締役）

- ・ナスコンバレーでの取組②

井上 高志（一般社団法人ナスコンバレー協議会代表理事、株式会社LIFULL 代表取締役社長）

- ・イノベーション人材の育成はどのように果たされるかー形骸化したルールと人材多様性について考えるー

内田 良（名古屋大学大学院教育発達科学研究科教授）（調整中）

- ・イノベーション人材の育成はどのように果たされるかー形骸化したルールと人材多様性について考えるー

木村 草太（日本学術会議特任連携会員、若手アカデミー会員、東京都立大

学法学部教授)

- ・地方創生はどのように果たされるか

小野 悠 (日本学術会議連携会員、若手アカデミー幹事、豊橋技術科学大学
大学院工学研究科准教授)

15:30 休憩

15:50 第2部 パネルディスカッション

ファシリテーター 寺田 佐恵子 (日本学術会議連携会員、若手アカデミー会
員、玉川大学リベラルアーツ学部講師)

パネリスト 話題提供者6名

相馬 憲一 (大田原市長) (調整中)

平山 幸宏 (那須町長) (調整中)

渡辺 美知太郎 (那須塩原市長) (調整中)

16:50 閉会の挨拶

岩崎 渉 (日本学術会議連携会員、若手アカデミー代表、東京大学大学院新領
域創成科学研究科先端生命科学専攻教授)

17:00 閉会

9. 関係部の承認の有無：若手アカデミーのため該当しない

10. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催委員会 (分科会) 委員)

公開シンポジウム
「口腔と全身のネットワーク ～脈管系から生命現象を理解する～」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議歯学委員会基礎系歯学分科会、一般社団法人歯科基礎医学会
2. 共 催：なし
3. 後 援：日本生命科学アカデミー
4. 日 時：令和4年（2022年）9月17日（土）17：30～19：00
※第64回歯科基礎医学会学術大会会期中
5. 場 所：徳島大学大塚講堂大ホール（徳島県徳島市蔵本町3丁目18-15）
6. 分科会等の開催：未定

7. 開催趣旨：

血管、リンパ管は全身に張り巡らされており、生体のライフラインであるとともに、動脈硬化やがんなど様々な疾患と深い関連がある。また血管は免疫細胞などの他の細胞との相互作用を介して感染、炎症、組織修復時にも重要な役割を担う。さらに個体発生・組織形成においても血管はダイナミックに変化する。このように脈管系は臓器間をつなぐネットワークとして機能するばかりか多様に変化し疾患や病態、生理現象を制御している。そこでがん、感染、発生における血管の機能について最新のトピックを多くの市民の皆様と共有し、生命現象を脈管の視点からとらえ、あらためて口腔と全身のつながりを議論するために本公開シンポジウムを企画した。

8. 次 第：

座長・オーガナイザー：

樋田 京子（日本学術会議連携会員、北海道大学大学院歯学研究院口腔病態学分野血管生物分子病理学教室教授、一般社団法人歯科基礎医学会代議員）

渡部 徹郎（日本学術会議連携会員、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授、一般社団法人歯科基礎医学会代議員）

17 : 30～17 : 35

(1) オーバービュー

樋田 京子 (日本学術会議連携会員、北海道大学大学院歯学研究院口腔病態学分野血管生物分子病理学教室教授、一般社団法人歯科基礎医学会代議員)

17 : 35～17 : 55

(2) 歯周病原細菌による生体バリア破綻と血管修復障害

多田 浩之 (東北大学大学院歯学研究科講師、一般社団法人歯科基礎医学会会員)

17 : 55～18 : 15

(3) 血管ネットワークとその形づくり

久保田 義顕 (慶應義塾大学医学部教授)

18 : 15～18 : 35

(4) がんにおける血管の異常性とその標的治療

間石 奈湖 (北海道大学大学院歯学研究院助教、一般社団法人歯科基礎医学会会員)

18 : 35～18 : 55

(5) 口腔がん微小環境の制御による新規治療法の開発

渡部 徹郎 (日本学術会議連携会員、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授、一般社団法人歯科基礎医学会代議員)

18 : 55～19 : 00

(6) クロージングリマークス

渡部 徹郎 (日本学術会議連携会員、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授、一般社団法人歯科基礎医学会代議員)

9. 関係部の承認の有無 : 第二部承認

10. 関係する委員会等連絡会議の有無 : 無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

日本学術会議近畿地区会議学術講演会
「総合知をはぐくむ学び」の開催について

1. 主 催：日本学術会議近畿地区会議、日本学術会議総合工学委員会、京都大学
2. 後 援：公益財団法人日本学術協力財団
3. 日 時：令和4年9月19日（月・祝）13：00～17：00
4. 場 所：京都大学百周年時計台記念館 百周年記念ホール（京都市左京区）
ハイブリッド開催

5. 開催趣旨：

多様で複雑な問題に向き合う際に、従来の欠如モデルに限界が指摘されている。欠如モデルとは、人びとが科学を受容しなかつたり、科学について不信を抱いたりするのは、人びとの科学的知識の欠如が原因だから、人びとの科学的知識を増やせば問題は解消するはずだという想定を指す。この限界に対処する新たな一つの切り口として、具体的には、SDGsにおける諸目標（カーボンニュートラルの目標など）や世界平和の達成において、専門知に加えて、総合知に注目が集まっている。ここで、総合知とは、問題解決において、人文・社会・自然科学における知識を横断的に利活用するための素養のことを指す。総合知をはぐくむにはどのような教育が望ましいかについて、以下の観点で議論を促進したい。

1. 総合知が重要な役割を果たすのはどのような場面か？
 2. 総合知と専門知との関係をどう確立すればよいか？
 3. 総合知をはぐくむためにデザイン思考・アート思考をどう活用すればよいか？
- 上記の問いに対し、多様な立場からの問題提起、報告を踏まえ、議論を行いたい。

6. 次 第：

開会挨拶

- 主催者代表 菱田 公一（日本学術会議副会長、明治大学研究・知財戦略機構特任教授）
- 主催者代表 時任 宣博（京都大学理事・副学長）

趣旨説明

趣旨説明者（近畿地区会議所属の会員・連携会員）

講演

- 招待講演1「高校での取組— 高大接続における総合知（仮）」
西 泰子（学校法人須磨学園理事長）
- 招待講演2「大学での取組— 総合知と専門知との関係（仮）」
松下 佳代（日本学術会議第一部会員、京都大学高等教育研究開発推進センター教授）
- 招待講演3「企業における取組—イノベーションと総合知（仮）」
武井 涼子（グロービス経営大学院教授・声楽家）

パネル討論・全体総括

上記講演者に加えて、

- 話題提供者1「総合知をはぐくむ総合知教育基盤（仮）」
黒岩 友樹（株式会社ベネッセコーポレーション）

- 話題提供者 2 「デザイン思考・アート思考の活用（仮）」
武田 秀太郎（九州大学都市研究センター准教授）

コーディネータ：小山田 耕二（日本学術会議近畿地区会議代表幹事・第三部会員、
京都大学学術情報メディアセンター教授）

閉会挨拶

- 主催者代表 日本学術会議近畿地区会議委員

総合司会

- 主催者代表 日本学術会議近畿地区会議委員

7. 関係部の承認の有無：科学者委員会、第三部

（下線の講演者等は、主催地区会議所属の会員・連携会員）

以上

公開シンポジウム
「地理総合」開始後の地理教育における課題と展望」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議地域研究委員会・地球惑星科学委員会合同地理教育分科会、
公益社団法人日本地理学会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和4年（2022年）9月24日（土）13：00 ～ 16：45
5. 場 所：香川大学（香川県高松市幸町1-1）
（新型コロナウイルス感染症の状況により、オンライン開催となる可能性あり）
6. 分科会等の開催：開催予定なし

7. 開催趣旨：

高校での必修科目「地理総合」が始まり、それに関わる地理教育の課題がみえてきた。さらには、小学校から中学校、そして大学における地理教育の課題もでてきている。そこで、本シンポジウムでは、「地理総合」をはじめとする地理教育の課題を実施形態および自然地理・環境防災、地誌国際理解、地図/GISといった学習内容、さらには大学教育までを含めて整理し、持続可能な地理教育とするための議論をしていく。なお、本シンポジウムは令和2年（2020年）8月に本分科会が発出した提言「「地理総合」で変わる新しい地理教育の充実に向けてー持続可能な社会づくりに貢献する地理的資質能力の育成ー」の検証および第25期の意思の表出に向けた議論の意義を持ち合わせている。

8. 次 第：

13：00 趣旨説明

井田 仁康（日本学術会議連携会員、筑波大学人間系教授）

司会

村山 朝子（日本学術会議連携会員、茨城大学教育学部教授）

13：10 『始まった地理総合の効果的な支援に向けてー地理総合に関するWEBアンケート・カリキュラム調査の最終報告ー』

竹内 裕一（日本学術会議連携会員、千葉大学名誉教授）

浅川 俊夫（東北福祉大教育学部准教授）

志村 喬（上越教育大学大学院学校教育研究科教授）

今野 良祐（筑波大附属坂戸高等学校教諭）

小橋 拓司（兵庫県立加古川東高等学校教諭）

13：30 地理総合における GIS 教育

橋本 雄一（日本学術会議連携会員、北海道大学大学院文学研究科教授）

13：50 報じられる地理総合、教えられる地理総合－国際理解と国際協力について－

中澤 高志（日本学術会議連携会員、明治大学経営学部教授）

14：10 自然地理教育の実践から明らかになった課題とそれをふまえた環境防災教育への展望

須貝 俊彦（日本学術会議特任連携会員、東京大学大学院新領域創成科学研究科教授）

山野 博哉（国立環境研究所生物多様性領域領域長）

南雲 直子（国立研究開発法人土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター研究員）

長谷川 直子（お茶の水女子大学基幹研究院准教授）

14：30 私立大学の新课程入試への対応について－高等学校地理歴史科教員免許の課程認定を受けている大学の事例

由井 義通（日本学術会議特任連携会員、広島大学大学院人間社会科学研究科教授）

村山 朝子（日本学術会議連携会員、茨城大学教育学部教授）

久保 純子（日本学術会議連携会員、早稲田大学教育・総合科学学術院教授）

森本 泉（日本学術会議連携会員、明治学院大学国際学部教授）

近藤 章夫（日本学術会議連携会員、法政大学経済学部国際経済学科教授）

石川 義孝（日本学術会議連携会員、帝京大学経済学部教授）

休憩（15分）

総合討論

司会

久保 純子（日本学術会議連携会員、早稲田大学教育・総合科学学術院教授）

コメンテータ

中村 康子（東京学芸大学教育学部准教授）

林 靖子（埼玉独協中学高等学校教諭）

14：45 開始

16：45 終了

9. 関係部の承認の有無：第一部、第三部承認

10. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム
「東南アジアのアブラヤシ農園の持続的開発の問題点と課題」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会農業生産環境工学分科会、環境学委員会環境科学分科会
2. 共 催：日本農学アカデミー
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和4年（2022年）9月29日（木）13:00～17:00
5. 場 所：オンライン開催
6. 分科会等の開催：開催予定なし

7. 開催趣旨：

東南アジアでのアブラヤシ農園の拡大は、農園拡張のために伐採が進むことによる熱帯泥炭林などの森林損失や、排水にともなう泥炭分解などによる温室効果気体の排出量増加によって地球環境に大きなインパクトを及ぼしている。他方、アブラヤシから採れるパーム油、パーム核油、繊維などからなる様々な産品はその地域・国の基幹産業となっており、外貨収入の貴重な手段でもある。日本においても輸入食用油のうち、パーム油は最大の輸入量を占める。本シンポジウムでは、このアブラヤシ農園の開発の背景、および持続的開発と維持における問題点と課題について、最新の知見を紹介する。社会に対して情報提供し、日本の貢献について考える機会を設けることを目的とする。

8. 次 第：

13:00～13:05 開催挨拶

仁科 弘重（日本学術会議第二部会員、愛媛大学学長）

13:05～13:10 趣旨説明

谷 晃（日本学術会議連携会員、日本農学アカデミー会員、静岡県立大学食品栄養科学部教授）

司会 吉本 真由美（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 農業環境研究部門気候変動適応策研究領域 主席研究員）

講演

13:10～13:45 1. アブラヤシ農園の拡大が私たちに問うことー東南アジア発の地球的課題ー

林田 秀樹 (同志社大学人文科学研究所教授)

13:45～14:20 2. アブラヤシ農園の開発による生態系機能の変化と大気環境への影響
平野 高司 (日本学術会議特任連携会員、日本農学アカデミー会員、北海道大学大学院農学研究院教授)

14:20～14:55 3. 東南アジアのアブラヤシ農園の拡大が生物多様性・生態系サービスに及ぼす影響

鮫島 弘光 (公益財団法人地球環境戦略研究機関生物多様性と森林領域主任研究員)

(休憩：15分)

15:10～15:45 4. 持続可能なアブラヤシ産業のありかた

北川 尚美 (日本学術会議第三部会員、東北大学大学院工学研究科教授)

15:45～16:20 5. 持続的なアブラヤシ農園経営に向けた農作物残渣の利活用技術の開発

近藤 俊明 (国立研究開発法人国際農林水産業研究センター生物資源・利用領域主任研究員)

16:20～16:50 総合討論 (全講演者)

16:50～17:00 閉会挨拶

大政 謙次 (日本学術会議連携会員、日本農学アカデミー会長、高崎健康福祉大学農学部長・教授、東京大学名誉教授)

9. 関係部の承認の有無：第二部、第三部承認

10. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム
「現代における政治的支配と知」の開催について

1. 主 催：日本学術会議政治学委員会政治思想・政治史分科会
2. 共 催：日本政治学会
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和4年10月1日（土）9：45 ～ 11：45（予定）
5. 場 所：龍谷大学深草キャンパス（京都市伏見区深草塚本町67）（予定）
6. 分科会等の開催：開催予定なし

7. 開催趣旨：

本シンポジウムは、「現代における政治的支配と知」と題して、現代政治における「ポスト真実」や「民主主義の後退」などの問題を背景に、政治思想史と規範的政治理論の二つの視角から、政治的支配にとって知がどのような意味を持つのかを検討する。

2016年のアメリカ大統領選挙やブレグジットに関する英国国民投票以来、政治における真実や知の意味があらためて問われるようになった。有権者による代表選出と政治家のアカウンタビリティ確保を基軸とする現代民主主義では、公約や政策の結果について真実に基づいた情報が流通することが必須である。しかし、経済危機やグローバル化、IT化の影響によって既存の政治制度や政治家への信頼が低下した結果、正しい知識とは何か不明瞭となり、むしろポピュリスティックな政治家が自身の知の正しさを主張して自由民主主義体制に挑戦するという構図も見られる。

こうした状況に対し、まず政治思想史の観点から、知をめぐるイデオロギー間の抗争を歴史的経緯に留意しつつ検討する。権威主義を擁護する近年の右派からは、たとえばリベラリズムによるアカデミズムの乗っ取りなどの批判が見られる。また、近年の移民をめぐる陰謀論的な言説も含め、知が政治支配の主たる抗争の場であることを明らかにする。

他方、政治理論においては、有権者の知の限界を指摘し、知者による政治(epistocracy)を評価する主張も見られるようになった。こうしたエリート主義的傾向に対して、認識的デモクラシー論の観点からデモクラシーと知との相互依存関係を検討する。認識的デモクラシー論とは、デモクラシーが正しい決定という帰結を生み出すことによって正当性を持つと論じる道具主義的主張である。デモクラシーが知と政治的支配をどのように結びつけているのか、明らかにすることを試みる。

8. 次第:

9:45 司会・趣旨説明

中澤 俊輔 (日本学術会議連携会員、秋田大学教育文化学部准教授)

9:50 報告①「権威主義体制とアメリカ保守主義の知識人」 (仮題)

井上 弘貴 (神戸大学大学院国際文化学研究科教授)

10:20 報告②「認識的デモクラシーとエピストクラシー」 (仮題)

井上 彰 (東京大学大学院総合文化研究科教授)

10:50 コメント①

遠藤 知子 (大阪大学人間科学研究科准教授)

11:05 コメント②

苅部 直 (日本学術会議第一部会員、東京大学大学院法学政治学研究科教授)

11:20 ディスカッション

9. 関係部の承認の有無: 第一部条件付き承認

10. 関係する委員会等連絡会議の有無: 無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

「日本学術会議 in 宮城」の開催について

1. 主 催 日本学術会議
2. 共 催 東北大学
3. 後 援 未定
4. 日 時 令和4年11月5日（土）10：30～16：55
5. 場 所 東北大学片平キャンパス（仙台市青葉区片平二丁目1-1）
（ハイブリッド開催）
6. 開催趣旨・プログラム

第一部 幹事会懇談会【非公開】

(テーマ)

ニュー・ノーマル時代の研究教育の在り方（仮題）

(開催趣旨)

2020年冬に勃発したコロナ禍は2年以上経過しても収束していない。新型コロナウイルス感染症を機に、人々の生活様式、価値観、行動など社会全体に様々な変化が見られ、大学における研究教育についてもオンラインによる研究会、授業、実習、実験、会議など急激な変化が起こった。それと同時に、研究上の新しいアイデアを生み出す交流機会の減少、キャンパスライフの喪失、学生の学修モチベーションの低下等の新たな課題も浮き彫りになりつつある。一方で、オンラインにはプラスの側面もある。ゼロコロナが現実的ではない以上、これからも我々はこういったウィズ・コロナの社会を生きていくことになるだろう。

こうしたコロナ禍で進んだ大学の研究教育における新たな取組とそれにより見えてきた課題を踏まえ、ポスト・コロナ期、すなわちニュー・ノーマル時代の大学における研究教育の在り方はどうあるべきか、懇談会では日本学術会議幹事会及び地方学術会議委員会委員と東北地区会議構成員がピンチをチャンスに変える方策等について、自由な雰囲気の中で検討する。

(場所)

部局長会議室（片平キャンパス）

(参加者)

日本学術会議幹事会構成員、地方学術会議委員会委員、東北地区会議構成員、東北地区産学官代表者（ハイブリッド開催）（予定）

(プログラム)

10:30 ~ 12:00

1) 開会挨拶

佐藤 嘉倫 (日本学術会議東北地区会議代表幹事、京都先端科学大学人文学部学部長・教授、東北大学大学院文学研究科教授)

2) 参加者からの自己紹介

3) 懇談

テーマ「ニュー・ノーマル時代の研究教育の在り方 (仮題)」

4) 閉会挨拶

佐藤 嘉倫 (日本学術会議東北地区会議代表幹事、京都先端科学大学人文学部学部長・教授、東北大学大学院文学研究科教授)

12:00 ~ 13:30 <休憩、第一部参加者の会場移動>

13:30 ~ 16:55

第二部 公開学術講演会【公開】

(テーマ)

積雪・寒冷地域における暮らしのこれまでとこれから—持続可能な発展のための氷雪圏からの視座— (仮題)

(開催趣旨)

わが国は夏季には温暖であるが、冬季には積雪や凍結に見舞われる地域が多く、人々は工夫を凝らしながら暮らしてきた。また、近代化に伴い、寒冷地ではない都市部でも少量の積雪や凍結が経済活動に混乱を来すようにもなっている。本講演会では、日本のみならず世界にも目を向け、寒冷な地域での人々の暮らしについて、歴史学、社会人類学、農学、雪氷学、環境学の専門家からお話を伺い、今後、私たちの生活様式の変化や気候変動が寒冷地域にもたらす新たな課題と、その課題にどのように向き合っていく必要があるかを参加者とともに考えたい。

(場所)

片平さくらホール (片平キャンパス)

(参加者)

第一部懇談会参加者、東北大学総長 (仮)、東北地区会議構成員、一般の方、研究者、学生など (ハイブリッド開催) (予定)

(プログラム)

13:30 ~ 13:40 開会挨拶

日本学術会議会長 梶田 隆章

(仮) 東北大学総長 大野 英男 (日本学術会議連携会員)

講演 (13:40 ~ 16:25)

13:40 ～ 14:10 「昭和初期の雪害運動について（仮題）」

伊藤 大介（東北学院大学教養教育センター助教）

14:10 ～ 14:40 「北国の農業を支える寒さ、涼しさ、雪の恩恵（仮題）」

下野 裕之（日本学術会議連携会員、岩手大学農学部教授）

14:40 ～ 14:55 <休憩 15分>

14:55 ～ 15:25 「雪氷災害と雪氷環境およびその変化について（仮題）」

根本 征樹（防災科学技術研究所雪氷防災研究部門主任研究員）

15:25 ～ 15:55 「大気中の微粒子とその気候影響－積雪・寒冷地域での大気観測例を交えて」

岩本 洋子（広島大学大学院統合生命科学研究科准教授）

15:55 ～ 16:25 「氷の文化誌－永久凍土の恵みと災い（仮題）」

高倉 浩樹（日本学術会議東北地区会議会員、東北大学東北アジア研究センター教授）

16:25 ～ 16:55 質疑応答

16:55 閉会挨拶

佐藤 嘉倫（日本学術会議東北地区会議代表幹事、京都先端科学大学人文学部学部長・教授、東北大学大学院文学研究科教授）（仮）

司会進行 武藤 由子（日本学術会議連携会員、岩手大学農学部准教授）

（下線の講演者等は、日本学術会議の会員・連携会員）

以上

公開シンポジウム
「21 世紀の新しい人材育成に向け薬学教育はどこへ向かうのか？」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議薬学委員会化学・物理系薬学分科会、薬学委員会薬学教育分科会、公益社団法人日本薬学会
2. 共 催：日本生命科学アカデミー
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和4年（2022年）11月26日（土）13：00～17：30
5. 場 所：オンライン開催
6. 分科会等の開催：未定

7. 開催趣旨：

2006年4月の入学者から薬剤師国家試験の受験資格が原則として6年制学部・学科の卒業生に限定されたことに伴い、国公立大学及び一部の私立の薬学部は、6年制学部と4年制学部を併設した。2017年の新4年制課程入学者までは一定の条件を満たすことで薬剤師国家試験受験資格が与えられていたが、現在では6年制学部を卒業しなければ薬剤師の国家試験を受けることはできない。これを機に、複数の大学で新しい人材育成を目指した教育システムへの移行が進んでいる。本シンポジウムでは、これらの背景をふまえ、今後の薬学教育の向かう方向について議論する。

8. 次 第：

総合司会：樋口 恒彦（日本学術会議連携会員、名古屋市立大学大学院薬学研究科教授）

13：00-13：10 開会の辞 佐々木 茂貴（長崎国際大学薬学部教授、公益社団法人日本薬学会会頭）

13：10-13：20 趣旨説明 永次 史（日本学術会議連携会員、東北大学多元物質科学研究所教授）

座長：庭山 聡美（日本学術会議連携会員、室蘭工業大学大学院工学研究科環境創生工学系化学生物工学コース教授）

- 13：20－13：40 「アメリカにおける薬学教育の特色」
藤原 亮一（ノースイースト・オハイオ医科大学薬学部助教）
- 13：40－13：55 「新6年制を基盤に薬剤師－研究者（Pharmacists-Scientists）の輩出を目指す！」
原 英彰（岐阜薬科大学学長）

座長：山崎 真巳（日本学術会議第二部会員、千葉大学大学院薬学研究院教授）

- 13：55－14：10 「生命科学の新時代における薬学教育のあり方」
藤尾 慈（大阪大学大学院薬学研究科教授）
- 14：10－14：25 「徳島大学における6年制1本化の経緯と目指すところ」
小暮 健太郎（徳島大学大学院医歯薬学研究部（薬学域）教授）

座長：徳山 英利（日本学術会議連携会員、東北大学大学院薬学研究科教授）

- 14：25－14：40 「金沢大学薬学系の人材育成方針とその実現に向けた取組み」
国嶋 崇隆（金沢大学大学院医薬保健学総合研究科教授）
- 14：40－14：55 「未踏薬学領域の開拓を目指す5年一貫制博士課程
－学生は「教わる」から「学ぶ」へ、教員は「教える」から「支援する」へ－」
加藤 博章（京都大学薬学研究科教授）

座長：武田 真莉子（日本学術会議連携会員、神戸学院大学薬学部教授）

- 14：55－15：10 「東京薬科大学が進める博士課程高度化への取り組み
～未来医療創造人育成プログラム「BUTTOBE」のご紹介～」
林 良雄（東京薬科大学薬学部教授）
- 15：10－15：25 「医・歯・薬 同時改訂コア・カリの今、医療系学部として薬学教育の進むべき道は！」
政田 幹夫（福井大学医学部名誉教授、大阪薬科大学名誉教授）

15：25－15：30 休憩

座長：眞鍋 史乃（日本学術会議連携会員、星薬科大学薬学部機能分子創成化学研究室教授、東北大学大学院薬学研究科医薬品開発研究センター創薬理論創成部門教授）

- 15：30－15：45 「大きく変貌する社会で活躍する薬学系人材の養成」（仮）
境 啓満（文部科学省高等教育局医学教育課課長補佐）
- 15：45－16：00 「社会が求める薬学人材」
太田 美紀（厚生労働省医薬・生活衛生局薬事企画官）

16：00－16：15 「製薬企業の現状と薬学部卒生・薬剤師活躍への期待」
吉田 力（第一三共株式会社渉外部長）

16：15－17：15 パネルディスカッション
モデレーター：武田 真莉子、永次 史
パネリスト：講演者全員

17：15－17：30 閉会の辞 太田 茂（日本学術会議連携会員、和歌山県立医科大学教授）

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

10. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

○国際会議の後援（1件）

以下の国際会議について、後援の申請があり、国際委員会において審議を行ったところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。

1. 第21回アジア獣医師会連合（FAVA）大会

主催：公益社団法人日本獣医師会、アジア獣医師会連合（FAVA）

期間：令和4年11月11日（金）～11月13日（日）

場所：ヒルトン福岡シーホーク

参加予定者国数：24か国・地域

申請者：公益社団法人日本獣医師会 会長 藏内 勇夫

※国際委員会6月28日承認、同国際会議主催等検討分科会6月24日承認

○国内会議の後援（5件）

以下について、後援の申請があり、関係する部、委員会に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。

1. 第40回日本獣医師会獣医学術学会年次大会（令和4年度）

主催：公益社団法人日本獣医師会

期間：令和4年11月11日（金）～11月13日（日）

場所：ヒルトン福岡シーホーク

参加予定者数：約2,400名

申請者：公益社団法人日本獣医師会 会長 藏内 勇夫

審議付託先：第二部

審議付託結果：第二部 承認

2. SAMPE Japan 先端材料技術展 2022

主催：一般社団法人先端材料技術協会（SAMPE Japan）、株式会社日刊工業新聞社

期間：令和4年10月19日（水）～10月21日（金）（現地）

10月12日（水）～10月28日（金）（オンライン）

場所：東京国際展示場（東京ビッグサイト）西ホール及びオンライン開催

参加予定者数：約53,000名

申請者：一般社団法人先端材料技術協会 会長 尾崎 毅志

株式会社日刊工業新聞社 代表取締役 井水 治博

審議付託先：第三部

審議付託結果：第三部 承認

3. 第24回日本感性工学会大会

主催：日本感性工学会

期間：令和4年8月31日（水）～9月2日（金）

場所：オンライン開催

参加予定者数：約350名

申請者：日本感性工学会 会長 庄司 裕子

審議付託先：第三部

審議付託結果：第三部 承認

4. 第43回日本熱物性シンポジウム

主催：日本熱物性学会

期間：令和4年10月25日（火）～10月27日（木）

場所：和歌山県民文化会館

参加予定者数：約200名

申請者：日本熱物性学会 会長 森川 淳子

審議付託先：第三部

審議付託結果：第三部 承認

5. 第63回大気環境学会年会

主催：公益社団法人大気環境学会

期間：令和4年9月14日（水）～9月16日（金）

場所：大阪公立大学中百舌鳥キャンパス

参加予定者数：約800名

申請者：公益社団法人大気環境学会 会長 伊豆田 猛

審議付託先：第二部、第三部

審議付託結果：第二部、第三部 承認

○今後の予定

●幹事会

第328回幹事会	令和4年 7月27日(水)	13:30から
第329回幹事会	令和4年 8月30日(火)	13:30から
第330回幹事会	令和4年 9月28日(水)	13:30から
第331回幹事会	令和4年 10月24日(月)～26日(水) ※第185回総会期間中に開催予定	
第332回幹事会	令和4年 11月28日(月)	13:30から
第333回幹事会	令和4年 12月21日(水)	13:30から

以降の幹事会日程は追って調整

●総会

第185回総会 令和4年10月24日(月)～26日(水)